

暁の動員

特215

107

暁の動員

日本興国同盟・編

山陽社

改訂3版

昭和17

大東亜戦争版



動員



230

詔書

天佑ヲ保有シ萬世一系ノ皇祚ヲ踐メル大日本帝國天皇ハ昭ニ忠誠勇武ナル汝有衆ニ示ス

朕茲ニ米國及英國ニ對シテ戰ヲ宣ス朕カ陸海將兵ハ全力ヲ奮テ交戦ニ從事シ朕カ百僚有司ハ勵精職務ヲ奉行シ朕カ眾庶ハ各々其ノ本分ヲ盡シ億兆一心國家ノ總力ヲ舉ケテ征戰ノ目的ヲ達成スルニ遺算ナカラムコトヲ期セヨ

抑々東亞ノ安定ヲ確保シ以テ世界ノ平和ニ寄與スルハ丕顯ナル皇祖考丕承ナル皇考ノ作述セル遠猷ニシテ朕カ拳々措カサル所而シテ列國トノ交誼ヲ篤クシ萬邦共榮ノ樂ヲ偕ニスルハ之亦帝國カ常ニ國交ノ要義ト爲ス所ナリ今ヤ不幸ニシテ米英兩國ト釁端ヲ開クニ至ル洵ニ已ムヲ得サルモノアリ豈朕カ志ナラムヤ中華民國政府曩ニ帝國ノ眞意ヲ解セズ濫ニ事ヲ構ヘテ東亞ノ平和ヲ攪亂シ遂ニ帝國ヲシテ干戈ヲ執ルニ至ラシメ茲ニ四年有餘ヲ經タリ幸ニ國民政府更新スルアリ帝國ハ之ト善隣ノ誼ヲ結ヒ相提攜スルニ至レルモ重慶ニ殘存スル政權ハ米英ノ庇蔭ヲ恃ミテ兄弟尙未タ牾ニ相闕クヲ悛メス米英兩國ハ殘存政權ヲ支援シ

テ東亞ノ禍亂ヲ助長シ平和ノ美名ニ匿レテ東洋制覇ノ非望ヲ逞ウセム
トス剩ヘ與國ヲ誘ヒ帝國ノ周邊ニ於テ武備ヲ増強シテ我ニ挑戰シ更ニ
帝國ノ平和的通商ニ有ラユル妨害ヲ與ヘ遂ニ經濟斷交ヲ敢テシ帝國ノ
生存ニ重大ナル脅威ヲ加フ朕ハ政府ヲシテ事態ヲ平和ノ裡ニ回復セシ
メムトシ隱忍久シキニ彌リタルモ彼ハ毫モ交讓ノ精神ナク徒ニ時局ノ
解決ヲ遷延セシメテ此ノ間却ツテ益々經濟上軍事上ノ脅威ヲ増大シ以
テ我ヲ屈從セシメムトス斯ノ如クニシテ推移セムカ東亞安定ニ關スル
帝國積年ノ努力ハ悉ク水泡ニ歸シ帝國ノ存立亦正ニ危殆ニ瀕セリ事既
ニ此ニ至ル帝國ハ今ヤ自存自衛ノ爲厥然起ツテ一切ノ障礙ヲ破碎スル
ノ外ナキナリ

皇祖皇宗ノ神靈上ニ在リ朕ハ汝有眾ノ忠誠勇武ニ信倚シ祖宗ノ遺業ヲ
恢弘シ速ニ禍根ヲ芟除シテ東亞永遠ノ平和ヲ確立シ以テ帝國ノ光榮ヲ
保全セムコトヲ期ス

御名 御璽

昭和十六年十二月八日

各國務大臣副署

序 文

遂に 一億總進軍の日が来た、米英兩國に對する宣戰の 詔書を謹讀するもの誰
か血沸き肉躍らざるものあらんや。

「隱忍久シキニ彌リタルモ」と仰せられたる大御心を拜察し奉りては、我等の心腸
煮え沸ぎ、一劍忽ち閃くや、太平洋も狭しとばかり 空に 海に 陸に電撃的戰
果を獲得しつゝある、去りながら太平洋始まつて以來の大激戦は實に皇國の興廢を
のものである。

第一次歐洲大戰に於ては地域は廣く、その戦禍はあまりにも痛ましく 深くて、
戦争の悲惨なるに恐懼を感じ、ヴェルサイユ條約締結後は久しく戦争となるべき事
件が常に續發しながらも 勃發せずしてすんだのである、しかるに遂に来るべき日
が来た、持てる國は少數の出稼人のために廣大なる土地を占有し、物資を獨占して、
持たざる國を人的に物的にあらゆる政策に於て壓迫した、賦みに支那千萬方キロの
地は原料を入れるには、あまりにも廣大な資源であり、また四億四千萬の民衆は顧客

としては莫大な消費者である、従つて歐米各國は支那を半殖民として租界を領有し物資を賣込み、借款を供與して文化設備の材料を送り込み、ユダヤ的金融支配の確立をなす等實に飽くなき搾取連續であつた。

今や地球上に生存する總人口の三分の二は總陸地十分の九を支配する彼等白人の壓迫から解放を叫んで起つた、これ即ち大東亞の戰爭である、かつてはサラセン民族はスペイン、ポルトガルの地へ、トルコ帝國はバルカンへ、蒙古の大軍は歐洲の天地を震撼させたではないか、我に絶體の信念があり、必勝の確心がある。今こそ一億同胞は大東亞十四億の民族を指導して勇躍邁進しなければならぬ。

日本の地理的環境及び萬邦無比の國體は、我等日本民族に確固不拔の信念をうえつけてゐる、皇土を守り、國に殉ずるの時は今である、光輝ある祖國の歴史を斷じて汚さざるとともに、大東亞共榮の共同目的達成のためには國民の一人々々が一團の火の玉となつて突進しなくてはならぬ、各自が職域奉公の誠を致し、自我巧利を抛つて、眞に皇運扶翼の臣道を實踐するは正にこの時である。

目次

扉	詔書
序	文
目次	
第一章	

帝國政府聲明

(一三)

帝國隆替此一戰

(一七)

第二章 時局と皇道精神

- 一、アジアの嵐……………(二)
- 二、日獨伊同盟はどうして出来た……………(二)
- 三、世界大戦の勝敗はどうなる……………(二)
- 四、日本精神は忠誠の二字……………(元)
- 五、完全無缺の世界指標……………(三)
- 六、世界平和への道……………(四)

(8)

第三章 南方を經營せよ

- 一、現状打破の火蓋……………(七)

- 二、今や日本は後へ退けぬ……………(四)
- 三、日本に刺戟されたドイツ……………(四)
- 四、科擧戦による破綻……………(四)
- 五、支那事變解決の鍵……………(四)
- 六、東亞共榮圏と日本の經濟……………(五)
- 七、石油問題についての考察……………(五)
- 八、東亞民族六億の指導……………(五)

(9)

第四章 新支那事情を報告

- 一、北中支の面目一新す……………(六)
- 二、北支蒙疆の指導權……………(六)
- 三、汪政權の新活躍……………(七)

四、結 言……………(庚)

第五章 日本國民の大使命

- 一、戦争は人類の歴史に……………(壬)
- 二、世界の新秩序はかくして……………(乙)
- 三、重大なる民族の使命……………(丙)

後 篇

第六章 戦争と婦人の動員

- 一、生産擴充と女性の訓練……………(八九)
 - ・資源不足も恐るゝに足らず
 - ・資源を愛護せよ
 - ・資源愛護は家庭から
 - ・女性の進歩軍

第七章 戦時下に於ける家庭生活

- 一、國防保安と婦人の防諜……………(九九)
- 二、新婦人團體と下部組織……………(一〇三)
- 三、實戦に臨んでの防空心得……………(一〇八)

一、家庭生活の合理化……………(一一九)

日本婦人の偉大さ

重大な女子青年の教育

- 二、都市婦人の生活改善……………(一二七)
- 三、戦時下の家庭衛生……………(一四〇)
- 四、科擧常識の再教育……………(一四六)

第八章 決戦態勢下の學徒總動員

- 一、可憐な學徒の勞働力……………(一五)
- 二、青少年と馬事訓練……………(一五)
- 三、綜合的科學教育……………(一六)

第九章 附 錄

- 一、奉仕經濟と新建設……………(一六)
- 二、ナチスの青年教育……………(一七)
- 三、樞軸國の學生進軍譜……………(一八)

ドイツの男女學生

イタリアの學生

帝國政府聲明

甚しく宣戰の大詔を奉戴し、技に中外に宣明す、抑々東亞の安定を確保し、世界平和に貢獻するは、帝國不動の國是にして、列國との友誼を敦くし、此の國是の完遂を圖るは、帝國が以て國交の要義と爲す所なり。

然るに、曩に中華民國は我眞意を解せず、徒らに外力を恃んで、帝國に挑撥し來り、支那事變の發生を見るに至りたるが、御稔威の下、皇軍の向ふ所敵なく、既に支那は、重要地點悉く我手に歸し、同憂具眼の土國民政府を更新して帝國は之と善隣の誼を結び、友好列國の國民政府を承認するもの已に十一箇國の多きに及び、今や重慶政權は奥地に殘存して無益の抗戦を續くるに過ぎず、然れども英米兩國は東亞を永久に隸屬的地位に置かんとする頑迷なる態度を改むるを欲せず、百万支那事

變の收結を妨碍し、更に蘭印を使曠し、佛印を脅威し、帝國と泰國との親交を裂かむがため、策動至らざるなし、仍ち帝國と之等南方諸邦との間に共榮の關係を増進せむとする自然的要求を阻害するに事日なし、その狀恰も帝國を敵視し帝國に對する計畫的攻撃を實施しつつあるものの如く、遂に無道にも、經濟斷交の舉に出づるに至れり、凡そ交戰關係に在らざる國家間に於ける經濟斷交は武力に依る挑戰に比すべき敵對行爲にして、その自體默過し得ざる所とす、然も兩國は更に與國を誘引して帝國の四邊に武力を増強し、帝國の存立に重大なる脅威を加ふるに至れり。

帝國政府は、太平洋の平和を維持し、以て全人類に戰禍の波及するを防止せんことを願念し、叙上の如く帝國の存立と東亞の安定とに對する脅威の激甚なるものあるに拘らず、隱忍自重八箇月の久しきに亘り、米國との間に外交々涉を重ね、米國とその背後に在る英國並びに此等兩國に附和する諸邦の反省を求め、帝國の生存と權威との許す限り、互讓の精神を以て事態の平和的解決に努め、盡す可きを盡し、

爲す可きを爲したり、然るに米國は、徒らに架空の原則を弄して東亞の明々白々たる現實を認めず、その物的勢力を恃みて帝國の眞の國力を悟らず、與國とともに露はに武力の脅威を増大し、もつて帝國を屈從し得べしとなす、かくて平和的手段により、米國ならびにその與國に對する關係を調整し、相携へて太平洋の平和を維持せむとする希望と方途とは全く失はれ、東亞の安定と帝國の存立とは方に危殆に瀕せり、事茲に至る、遂に米國及び英國に對し宣戰の大詔は渙發せられたり、聖旨を奉體して洵に恐懼感激に堪へず、我等臣民一億鐵石の團結を以て蹶起勇躍し、國家の總力を擧げて征戰の事に従ひ、以て東亞の禍根を永久に芟除し聖旨に應へ奉るべきの秋なり、惟ふに世界萬邦をして各々その處を得しむるの大詔は、炳として日星の如し、帝國が日滿華三國の提携に依り、共榮の實を擧げ、進んで東亞興隆の基礎を築かむとするの方針は、固より渝る所なく、又帝國と志向を同じうする獨伊兩國と盟約して、世界平和の基調を劃し、新秩序の建設に邁進するの決意は、益々牢固た

るものあり、而して、今天帝國が南方諸地域に對し、新に行動を起すの已むを得ざるに至る、何等その住民に對し敵意を有するものにあらず、只米英の暴政を排除して東亞を明朗本然の姿に復し、相携へて共榮の樂を翹たんと冀念するに外ならず、帝國は之等住民が、我が眞意を諒解し、帝國と共に、東亞の新天地に新なる發足を期すべきを信じて疑はざるものなり、今や皇國の隆替、東亞の興廢は此の一舉に關れり、全國民は今天征戰の淵源と使命とに深く思を致し、苟も驕ることなく、又怠る事なく、克く勵し克く耐へ、以て我等祖先の遺風を顯彰し、難關に逢ふや必ず國家興隆の基を辟きし我等祖先の赫々たる史蹟を仰ぎ、雄渾深遠なる泉源の翼賛に萬遺憾なきを誓ひ、進んで征戰の目的を完遂し、以て盛慮を永遠に安んじ奉らむことを期せざるべからず。

帝國の隆替此一戰

内閣總理大臣
陸軍大臣
海軍大臣
陸軍大將

東 條 英 機

只今宣戰の御詔勅が漢發せられました。

精銳なる帝國陸海軍は今や決死の戦を行ひつつあります。

東亞全面の平和は、之を熱願する帝國の凡ゆる努力にも拘らず、遂に決裂の已むなきに至つたのであります。過般來、政府は、あらゆる手段を盡し對米國交調整の成立に努力して参りましたが、彼は從來の主張を一步も譲らざるのみならず、却て英、蘭、支と聯合して支那より我が陸海軍の無條件全面撤兵、南京政府の否認、日獨伊三國條約の破棄を要求し帝國の一方的譲歩を強要して参りました。これに對し帝國は飽迄平和的妥結の努力を續けましたが、米國は何等反省の色を示さず今日に

いたりました、若し帝國にして彼等の強要に屈從せんか、帝國の權威を失墜し支那事變の完遂を期し得ざるのみならず、遂には帝國の存立をも危殆に陥らしむる結果となるのであります。事茲に至りましては、帝國は現下の危局を打開し、自存自衛を全うする爲斷乎として立ち上るの已むなきに至つたのであります。

今宣戰の大詔を拜しまして恐懼感激に堪へず、私、不肖なりと雖も一身を捧げて決死報國唯々宸襟を安んじ奉らんとこの念願のみであります、國民諸君も亦、己が身を顧みず、醜の御體たるの光榮を同じくせらるるものと信ずるものであります。

凡そ勝利の要訣は「必勝の信念」を堅持することであります。建國二千六百年、我等は未だ嘗つて戦ひに敗れたるを知りません、この史績の回顧こそ、如何なる強敵をも破碎するの確信を生ずるものであります、我等は光輝ある祖國の歴史を、斷じて、汚さざると共に、更に榮ある帝國の明日を建設せむことを固く誓ふものであります、願ふれば、我等は今日迄隱忍と自重との最大限を重ねたのであります、

斷じて安きを求めたものでなく、又敵の強大を懼れたものでもありません、只管、世界平和の維持と人類の慘禍の防止とを顧念したるに外なりません、然も、敵の挑戦を受け祖國の生存と權威とが危きに及びましては、驟然起たざるを得ないのであります、當面の敵は物資の豊富を誇り、これに依て世界の制覇を目指して居るのであります、この敵を粉碎し東亞不動の新秩序を建設せむが爲には當然長期戦たることを豫想せねばなりません、之と同時に、絶大の建設的努力を要すること、言を要しませぬ、斯くて我等は飽く迄、最後の勝利が祖國日本にあることを確信し、如何なる困難も障碍も克服して進まなければなりません、これこそ昭和の臣民我等に課せられたる天與の試煉であり、この試煉を突破して後にこそ、大東亞建設者としての榮譽を後世に遺ふことが出来るものであります此の秋に當り滿洲國及び中華民國との一徳一心の關係愈々致く、獨伊兩國との盟約益々堅きを加へつつあるを欣快とす、ものであります、帝國の隆替、東亞の興廢、正に此の一戦に在り、一億國民が

一切を擧げて、國に報い國に殉ずるの時は今であります、八紘を宇と爲す皇護の下に、此の盡忠報國の大精神ある限り、英米と雖も何等惧るるに足らないのであります、勝利は常に御稜威の下にありと確信致すものであります、私は茲に謹んで微衷を披瀝し、國民と共に大業翼賛の丹心を誓ふ次第であります。

第二章 時局と皇道精神

海軍大將 山本英輔

一、アジアの嵐

今次支那事變の勃發を考ふるに、滿洲事變以來、列國が餘程日本を警戒して、支那に準備させて居つたものと思はれる。つまり、これ以上日本の勢力が擡頭して來たのでは、極東の情勢は一變するといふ利害的な懸念から、英、米、佛、ソ聯等の列國は、陰に陽に支那を援助し、使喚してゐた事實がある。

歐羅巴に於ては、この前の世界大戰の悲惨な經驗を嘗めて居り、戦争をすれば勝敗いづれの國も、ひとしく慘禍を蒙る。國力は消耗し盡して疲弊し、仲々恢復は困

難である。その上に今日では、飛行機が自覺しく發達して來てゐるから、その戰禍被害は、第一次世界戦争の比ではない。それ故に、容易に歐羅巴諸國間には戦争は起らないし、金で得ないといふ事情にあつた。しかしながら、極東に於ては、歐米諸國との距離は遠いし、日本の飛行機は到底この遠距離を飛翔して襲撃することは出来ない。のみならず、他國の土地で他人の手を使い、他人の資材を消耗してやることであるから、對岸の火車と同様大きい程見物である。しかも、極東の戦争により日本が困憊すれば、世界の最後の市場たるところの亞細亞は、彼等の思ふがままに料理することが出来る。かういふ魂膽が、彼等列國の間にあつたことも明白である。

従つて、極東に於ては、非常に戦争の起る危険性があつた。この危険性は、つひに爆發して、支那事變が惹起され、戦火はいよいよ擴大して、今日では既に四年を経過したけれども、未だ容易に結末をつけるまでに至らない。

だが孫子の兵法にも見えてゐる通り、大軍を動かして、段々長引けば非常に多くの人命を喪ひ、金を消費し、物資を使ひ果し、國民は戦さに飽きて來るし、戦線の兵士も戦争に飽きる。かうなると、その隙に乗じて、諸侯が並び起る。今日ていへば、諸侯でなく列國の干渉が起ると解すべきであらう。

しかし、事變以來我が皇軍は、到るところ連戦連捷、古今東西の歴史を通じて、未だ曾て見受けぬ戦果を收め、文字通りの懸軍萬里、南京を陥落し、漢口を攻略し更に廣東を奪取したのである。とはいへ、私は決して安心のあまり氣を弛めてはならぬと思ふ。何故なら、過ぐる世界大戦に於て、獨逸は自國に一步も敵軍を入れなかつたにも拘らず、しかも連戦連捷を博して居りながら、最後の土壇場へ行つて、國內から崩壊し、大敗を喫したてはないか。いよいよこれに勝負が決したといふ、ギリ／＼のところまで行かなければ、吾々は勝つたと云つて樂觀することは出来な

二、日獨伊同盟はどうして出来た

我が國がかうした段階に在る時、一昨年の暮頃から、日獨伊同盟問題が持上つたのであつた。しかし、それは不幸にして成立を見ることが出来ず、その間に突如として、獨ソ不可侵條約の締結が發表され、それがために平沼内閣が仆れたことは、既に周知のことであらう。

然るに、過般のこと、約半年以上を費して成立しなかつた日獨伊同盟が、今度は僅かに二週間足らずの交渉でまとまつたのだから、洵に喜ばしい次第である。だが同盟が成立したとはいへ前年と今年とは、その意義が自ら違つて來ると思ふ。

前年は英米のことは、既に日獨伊の間に防共協定が出来て居るのであるから、うづかりすると三國同盟にまで進展するのではないか、といふ懸念を抱いてゐた。萬一これが實現すると、イギリスにとつては大きな痛手である、何故なら太平洋か

ら印度洋にかけて、日本の海軍力に抑へられるからだ。それ故、極力日獨伊同盟の不成立を、ひそかに希望して居つたに相違ないと思はれる。ところが、希望通り成立しなかつたので、イギリスは非常に安心し、到底、日本は英米に對して搦つくやうな態度に出られないといふ見通しをつけ、自慰的感情に溺れたのではないか。そこで獨逸のポーランド進軍を契機として、イギリスが起つに至つたのではないかと思ふ。

これも私の洞察だが、ヒットラー總統の計畫は、日本と手を握ることが上策であつたに相違ない。同時にソ聯と手を握ることはその下策であつたに相違ない。

彼が先づ上策に成功せんとして、多大の努力を拂つたが、九十九パーセントまで成立しかつてゐて、つひに不首尾に終つてしまつた。そこで見切りをつけて、下策と知りながら、苦肉の策として、ソ聯と手を握つたのであらう。しかしヒットラー總統の豫定表の中には、下策を執つても無血で、獨逸の目的を押し通せるものと、ち

やんと決めてゐたに相違ない。ところが、その胸算用通りには行かなかつた。

それといふのも、ソ聯は強大な國であるが、元來陸軍國であるから、これが獨逸と獨逸しても、イギリスのやうな國民の糧食や軍需資材その他一切の物資を、海を越えて運んで來る國にとつては、さう大して痛痒を感じない、それで頭戦端を開くべく起上つたのぢやないかと思ふ。若し日本と獨逸が手を握つて居つたならば或は歐羅巴に戰爭は起らなかつたかも知れない。しかし、歐洲が戰火動亂の巷となつたといふことは日本にとつては、所謂、天祐神助の致すところであらうと、考へざるを得ない。

三、世界大戦の勝敗はどうなる？

今や世界は擧げて戰爭動亂の眞只中に置かれてゐる。しかもこの秋、日獨伊三國の同盟が締結されたのであるから、言はず前に述べた通りアジアの嵐と歐羅巴の嵐

とが手を握つて一緒になつたから、世界的の大低氣壓が出来た様なもので、私は最早、世界大戦の幕がこれによつて切つて落されたものと考へる。日米關係は、今後一層急激に惡化の一途を辿るであらうことを覺悟しなければなるまい。この世界大戦の結果はどうなる？ 或は勝敗が決するかも知れないが、しかし我々の頭腦では判斷の出来ない一種の力が作用してゐるやうに思はれる。このところ何れの國もともに目算が外れてゐるからだ。従つて結果をいまから豫言することは出来ないが、しかし、結局、世界各國は力盡きて、へト〜になるまで戦ひ抜くのではないだろうか？

現在の日本を譬へれば、恰度太平洋の颶風圈内へ船を進めたやうなものだ。逆巻く怒濤は、木つ葉微塵にせんずと船體を揺り動かし、吹き捲くる嵐は、唸りを立てて狂瀾する。この日本丸の乗組員たる吾々は、理窟を言つてゐる時ではない。協心戮力、眞に一心一體となつて、船内に浸入する水を掻き出さなければならぬし、破損

の穴があるなら、着物を破つてでも塞がなければならぬ。そして船を安全に保つといふことに専念する以外にはない。この故に所謂、一億一心の體制を整へる必要があるのだと信ずる。

更に當面の吾々は、この嵐を、この海の激浪を鎮めることに努力せねばならぬ。怒濤を鎮めるには風さへ収まればいゝのである。風が止めば自然に海は靜かに風いて、快適な晴天が訪れる。この怒濤を捲起す風の中でも、最も恐るべきは、目に見えざる思想の疾風である。現在の日本には、この種の非常に凶悪なる思想の疾風が吹き荒れてゐるのを迂闊に見逃すことは出来ない。われを取りまく海の千波萬波を越えて、或は赤き露西亞的氣流、或はまた獨伊のそれ、或はアメリカのそれ等々が激しい勢ひで流れ込んでゐる。いま日本は國力の消耗により、バロメーターが下つたと同じ理窟であるから、この際吾々は、眞の日本精神に目醒めて、吾々の下つたところの氣壓を上昇させて行けば、流れ込む氣流は防遏出来るのみならず、嵐は自然に解消するわけである。

世間では防共といふ一事に重大な關心をもち、共產主義の侵入を憂慮してゐるがこの思想の旋風を何も外に防ぐ必要はない。日本人全體が、眞に一人々々日本精神に目醒めて、この精神を堅持して居れば、どんなところから赤化思想が潛入して來やうとも、これを冒すことは出来ないであらうし、些も不安はない。要するに問題は、吾々個人の精神にあると思ふ。

四、日本精神は忠誠の二字

然らば、日本精神とは何ぞや？一言にしてつくせば、日本精神は絕對である。日本は絕對なのだ。世界各國は相對である。如何に彼等が強大に見えても、相對のものであるから、これが束になつて來たところて、絕對を動かすことは出来ない。このやうな信念を持つて居れば、どんな難關と雖も突破して行くことが出来る。

すめらみことは、吾々の中心であらせられるから、この 天皇陛下が絶対の立場にお出でになるのである。しかも 天皇陛下の御稜威は絶対であり、同時にその御力は無限大である。この根本理念を、吾々は十分に把握せねばならぬ。そして吾々が本誓に至誠を擧げて、天皇に歸一し奉つた時に、御稜威と同じところに、同じ中心の下に合致する。それが即ち吾々が御稜威をいたゞくのであつて、これを戴いた時に、吾々に絶対の力が出て来るのである。

日本の軍人が屢々戦場にて、人間業とは思へぬ、神業に等しい働きをするのは何故かといへば、これは 天皇陛下の絶対無限の御稜威を戴いてゐるからである。これはひとり戦場にある軍人ばかりではない。吾々日本人は誰でも同じやうに、御稜威を戴いてゐるのだ。

いま一度繰返さう。日本は絶対である。歐米諸國は相對である。赤とか青とか紫とかいふ色は、それ／＼相對的の色であるが、歐米諸國は恰もその色のやうなものだ。假りに赤がい、からと云つて、世界中赤一色になつたと考へて見るがい、これは實に愛憎極まることではないか。また紫がい、からと云つて、假りに紫一色になつたとしたならば、これまた同様である。しかしながら、わが日本はさうした相對ではない。絶対にいるのであるから、恰度太陽の光線のやうに纏ての色を包含しつ、而かも無色透明で萬物を照らして居る。この光によつて初めて、世界は明るく潰らかに、而して明らかなになるのである。やはり日本の皇道精神、この太陽の光線のごとく、無色透明な色でなければ、到底世界を光被することは出来ない。

世界の科學は、正に日進月歩、今日の段階にまで發達して來たが、それは恰も富士山の頂上を極めんとして、一步步登つて行く姿に等しい。しかし我が日本は、もう既に初めから富士山の頂上に達してゐたのだ。ところが西洋の科學とか、文明とかいふものが如何にもよささうに見えるところから、殊に赤、青、紫などの色彩鮮やかなところから、覺えず知らず、吾々は絶対の位置を降りて、相對の位置につか

うとしてゐる。これ即ち吾々が日本精神を忘却して、迷路に踏込んだ所以である。ついでには、いまこそ吾々は本當の根源であるところの、元の富士山の頂上に居ることを自覺して動かなければ、天下を睥睨することは出来ない。

五、完全無缺の世界指標

過去なくして現在はなく、現在なくして未來はあり得ない。肇國悠遠の昔より發展して來た根本原理を、把持してゐる國は日本だけである。宇宙觀といひ、世界觀といひ、社會觀といひ、國家觀乃至人生觀といひ、總ての原理を、完全無缺に把持してゐるのは、即ち日本あるのみだ。支那の儒教にしる、印度の佛教にしる、また西洋のキリスト教にしる、その指導原理は完全無缺とはいひ難い。従つて完全無缺の指導原理をもつ日本こそ、正しき世界建設の指導者でなくてはならない。

それからまた、日本の國は神代以來、産靈の作用によつて、生々化育、發展して來たのである。それ故に日本に於ては、現今物資の缺乏を憂ふる向きが多いが、これは吾々が眞に惟神の道を遵奉して、努力さへすれば解決される問題で、いろいろな物が發明發見され、決して行詰らないであらう。結局、宇宙の運行が止まらない限り、日本の惟神の道には、須臾も停頓することはない。この點に活眼をひらけばこれから先きの難關を突破して行くことも、さして困難ではない。今日では大分機構の問題が提起されてゐるが、肝要なのは精神の問題である。如何に立派な機構を作つても、その中に入れる人間の精神が、日本のものでなければ、本當の働きは出て來ないに違ひない。

どうも今日の日本では、ヒトラーだとか、ムツソリーニだとか、それらの偉大な業績に憧れてゐる傾向がある。

しかるに我が國の皇道精神は、さやうな華々しいものではないが、悠遠の昔より悠久なる將來へと、無始無終に繋つて行く。

それ故、吾々は別に翻道的なものに憧れる必要はない。他くまでも皇道精神の正しい原理に従つて行けば、必ず永久の平和を招來し得ると思ふ。

六、世界平和の道

世の中には、正と反と合がある。プラスがありマイナスがあり、そしてこれを合せるものがあると、このやうな観方をするものがある。しかしこれは觀測の錯覺に陥つてゐるのだと思ふ。彼らは相反するものを見、相對觀を纏まへて、世の中に永久の平和は來ないといふ。彼らは、また今日までの世界史を客觀して、流血争鬪の時代が多くて、平和の時代が少ないから、將來もさうだと決めてかゝる。

だが、それは今までの世界の指導精神が惡かつたのである。決して、正と反とは同時にあるものではない。皆車は一つの方向に廻つてゐるのである。唯或る點に立つて、左右を見ると、反對に動いてゐるかのやうに見えるに過ぎない。この同じ方向に廻つてゐるといふことが、世界の人が心を揃へて、同じ方向に平和の道を進み得るといふ傾向であると思ふ。しかも、その原動力を與へるものが、日本の皇道精神の原理でなければならぬ。

伊太利でも、獨逸でも、國歩艱難な時代となつて、ムツソリーニやヒトラーのとき巨人が現はれた。何等の經歷はないが、至誠を捧げて國家のために國民のために難局を處理し、刮目すべき業績を擧げてゐる。我が日本に於ても、何時までも古いものに囚はれて、見掛けだけの經歷に頼つてゐる間は、新しいものは生れて來る筈がない。眞に國家を思ふ至誠の指導者が出て來て、この皇道精神を實行するとき本當の天の岩戸開きが實現する。

新體制は新しい體制ではなく、眞の體制であり、眞はまた神の體制でなければな

らぬ。しかも一億一心となり、國民が欣喜奮躍、正しきことを好んでするやうになつた時が、眞の神の體制であつて、こゝに到つて日本は、始めて救はれるのだと思ふ。すべてのものは正々堂々と、日本の國技である相撲のごとく、實力を發揮し、力あるものが正しき位置につくといふやうに、國家社會の情勢を整へたならば、世の中はすべて正しく、而して明朝になるであらう。

第三章 南方經營論

石原産業海運會長 石原廣一郎

一、現状打破の火蓋

日本の現状を領土的に見るに、世界陸地總面積一億三千四百萬方キロに對し、我が領土は六十八萬方キロ、即ち世界總面積の二百分の一に當り、人口は世界二十一億に對して約一億、即ち世界人口の二十分の一に相當して居る。土地は二百分の一人口は二十分の一といふことは、世界人類に與へられたる土地に對し、我が大和民族は約一割しか與へられて居らぬ。この割の悪い現状が即ち日本が自給自足出來ない國柄にあるといふことを意味するものであつて、今日まで我々の生活に必要な

物資の殆ど大部分を海外に求めなければならぬ原因もこゝにあるのである。

現に石油とか鐵とか、或はアルミニウムとか、又棉花とか、羊毛とか、かやうなものも殆ど總て海外にこれを依存して居るのである。唯僅に自給自足の實を擧げて居たものは、食糧だけに過ぎなかつたのである。併しその食糧問題といへども、一度かうした支那事變にぶつかつてみると、直ぐに米の不足といふやうなことで騒ぎを起さなければならぬ。これとても現在内地人口七千萬に對して、約七千萬石の米が必要であるのに、内地でとれる米の量は漸く六千萬石前後で、残りの不足米一千萬石は、朝鮮或は臺灣から補給して、辛うじてこゝに自給自足が出来て居る状態である。

併しながら人口の増加は年々百萬人に及び、この割合を以て計算するならば、今後十五年を經過した昭和三十年を迎へたあかつきには、内地人口は一億を突破するであらう。その時に米は少くとも三千萬石の不足を來すであらう。この三千萬石を

外國から輸入するといふことになれば、少くともこゝに十億圓の資金を必要とすることになつて來るのであつて、現在自給自足して居ると稱する食糧問題すら、近き將來には却々容易ならぬ問題となるべき事情にある。

どうしても、これを何とか解決しない限り、我々民族の生活安定の基礎を築き上げることは出来ない。勿論これを解決する爲には、結局海外に關連するより外に手はない。併しながら海外に關連するといふことに就ても問題があつて、例へば貿易の點から見れば、世界各國は既に日本の商品に對して、到るところでボイコットをして居る現状である。又移民の點から見れば、曾ては日本はアメリカに移民を送つてをつたが、このアメリカ移民も遂に門戸を封鎖され、比較的開放的であつた南米に於ても、又フィリッピンに於ても、最近は、同様な排斥手段に出て居るのである。斯くてこの海外移民も思ふやうに行はれない現状にあるのである。

かく見來ると我々民族の將來といふものは、非常に不安に襲はれて來てをつた譯

である。

勿論斯の如き結果になつたのは、第一次歐洲大戰後に於て、戰勝國である英米佛等の國家群が、夫々自國の現状を維持することが利益であつた爲に、これを擁護せんとして國際聯盟、或は不戰條約或は軍縮會議等を開いて、この世界の現状維持工作といふものに狂奔したからに外ならぬ。その結果國民生活の不安は益々濃化し、遂に自然の要求から、世界の現状打破の爲、已むを得ず昭和八年の三月に國際聯盟を脱退した。續いて日本と同じやうな國柄にあつたドイツも亦昭和八年の十月、即ち日本より約半年後れて國際聯盟を脱退したのである。世界現状維持國家が國際聯盟その他の方法で以て現状維持工作に狂奔して居た根本の目標は、日本とドイツを抑へることであつたが、この兩國が相前後して聯盟を脱退したので、こゝに國際聯盟は其締結當時の目標を失ひ、遂に骨抜き形になつた。丁度この頃から世界は大動搖、大變革の様相を示して居たのである。それが遂に今日の世界大戦争の火蓋を

切つた。

二、今や日本は後へは退けぬ

今や我等大和民族は、永遠の生活安定の基礎を築き上げるため支那事變を契機として、その一大抱負の實現のために、こゝに軍事行動に出て居るのである。勿論これは當初から東亞の大建設をなさうといふ一つの計畫的行動であつたか、それともさうでなかつたかは一應別問題として、兎に角これが即ち「自然の要求」である。このことは支那事變が勃發以來、いろ／＼の動き、或は政府の示しつゝあるところの聲明を見ても、明白に論證し得るのである。

更に又最近になつて、日獨伊三國同盟が出来た前後から、東亞の共榮圈の確立といふことを云ふやうになつた。東亞共榮圈の中には獨立した國家は日本、滿洲、支那、泰國に過ぎず、それ以外の國は何れも英、米、佛、蘭等の國々の植民地から成

り立つて居る。これらの諸國の植民地を包含した東亞の共榮圈を日本が確立せねばならぬといふことは、これらの範圍から敵性白人の勢力を驅逐すべしといふことを明白に政府は國民に示したのである。即ち日本國民が生存權の發動から當然來るべき要求に従つて進むべき針路を明白にしたものといはなければならぬ。夫れと同時にこの大東亞の建設、即ち共榮圈の確立を達成しなければ、我々民族の永遠の生活の安定を確立することは出來ない。若しこれが、途中にして挫折するやうなことがありと假定するならば、今日支那事變の爲多數の犠牲を拂つてをるのであるからこれを元の日本にするといふことは容易ならぬことであつて、その間に日一日と國民生活の脅威を受けて行かなければならぬ。故にこゝで如何なることがあつても、この目的を完遂しない限り、日本の前途は危しといはなければならぬ。

三、日本に刺戟されたドイツ

そこでこの大業を完遂する方法如何の問題であるが、勿論これは對外問題に關聯するところであるが、又一方に於て國內問題、即ち國民がこの目的に向つて邁進するといふ一つの大きな結合が絶対に必要である。

先づその中で國際關係を見るならば、日本が支那事變を起して以來、極東に於ていろ／＼活動を始めたが、この極東の動亂が延いて歐洲に及び一昨年ドイツの奮起となつて、それがやがてヨーロッパ大戦争の原因となつたのである。この事實を見てもドイツは、日本の極東の行動をうまく利用したといふか、非常にいゝ機會を日本で作つてやつたといふか、兎に角さういふ結果となつた。

ドイツは一昨年行動を起すに先立つて側面の敵ソヴエト・ロシアと搦手した。それはドイツの國力を以てしては、英佛を敵に廻し、更に側面の敵ソヴエト・ロシアを敵に廻すことは、容易ならざることである。そこでドイツは將來どうあらうともこの際取敢へずソヴエトと搦手をして置いて、自己の目録の目的、英佛を倒すと

いふ行動に出たのである。併しながら獨ソ間の利害關係はまた微妙を極め、この兩國の親善關係の永續性には相當の疑問がある。

一方イギリスに於てもこのヒトラーの悩み、スターリンの肚を推察して、こゝにイギリスはドイツの空襲その他の大攻撃に依つて、或はロンドンに死の街と化し、或はイギリスの産業地帯が大破壊されたにも拘らず、これを頑張つて支へてをるのは、將來必ず獨ソの關係に破綻の生ずる時が来るから、イギリスは頑張ることに依つて必ず勝ち得るといふ肚てやつてゐるに違ひない。

又一方に於てアメリカはイギリスをどこまでも助けるといふ強いイギリス援助の意見を述べてをるが、今日また事實上に於て武力を以て助けて居ない。こゝに又アメリカの作戦としてはソヴェト・ロシアに手を打つてイギリスを助けやう、將來必ずイギリスが勝ち得るといふ考への下に、ソヴェト・ロシアを操る行動に出るであらう。

四、科學戰に於ける高度の破壊

斯く見る時、ヨーロッパの今日の大戦は容易ならざるものがある。第二次歐洲大戰勃發以來一ケ年を経過したが、第一次歐洲戰爭に比較してみると、第一次大戰は四ケ年の長き歲月に亙る戦であつたに對し、今度はまだ僅かに一ケ年である。しかもその破壊の度に至つては、この二十年間に於ける科學の進歩のために、第一次大戰の當時四ケ年間戦火の巷となつたフランスの破壊よりも、この一年間に於けるイギリスの破壊された程度の方が、更にく大であると考へられる。この破壊を受けて居る今日のイギリスは過去に於て百年、二百年の歲月と、多大の物資と資金と人力とを以て築き上げた文明に外ならぬ。これが今度復興するといふことは、却々容易ならざるものがある。更に今後戰爭が長きに亙つて續くとするならば、ヨーロッパの文明の破壊といふものは更に大きなものとなるであらう。これを日本から眺む

る時、ヨーロッパ人同志が自らヨーロッパ文明を破壊してをるものだといはなければならぬ。

更にこのヨーロッパのもう一つの現象を見るに、ドイツがイギリスに對して經濟封鎖作戦を採つてゐるといふ事實である。ドイツはポーランド解決後に於てデンマークに進出し、續いてスカンデナビヤ半島に伸びてノールウエーを押へた。而して今日まで一年有餘の間にイギリスの輸送船その他が海中に撃ち沈められたる数は相當な量に上つてをる。少くとも一年間のヨーロッパ戦争に於て助けなくなつたヨーロッパの船舶は、最少限度四百萬噸を下らないのではないか。

ヨーロッパ全土には白色人種が五億五千萬住まひ、世界的に見れば人口稠密である。併しながらこれらの國々は、何れもアフリカ或は東洋、或は南米に廣大なる植民地を有つてをり、この植民地あるが爲に生活の安定が出来てをるのである。この植民地とヨーロッパとの間の連絡はいふまでもなく、船舶に依つてをるのであるが

今次戦争の爲四百萬噸の船舶を失ふに至つたことは、植民地との物資の輸送關係に如何なる影響を及ぼすであらうか、私は容易ならざるものがあると思ふ。この點から見ても、今日の科學戰に依る破壊は相當高度に行はれ、ヨーロッパ全土に亘つて大きな物資の不足、更に植民地から輸送する食糧の不足を來すことになるであらう。そこでこの戦争が今後一年も繼續するならば、恐らくヨーロッパ全土に亘つて食糧飢饉の來ることは間違なく、更に又食糧不足の爲に飢死にをすやうな事象が起り、それも相當の數に上るのではなからうか、かういふ情勢にあるといふことは即ちヨーロッパ人の没落期の到來を意味するものである。

五、支那事變解決の鍵

蘇へつて支那事變の實際をみる時、蔣介石は今次事變の當初から長期抗戰の建前を採り、日本との戦は武力に於ては到底及ばないが、長期に亘れば必ずや勝利を得

るのだと察語してをつた。かくて今日四ヶ年の歳月を経て来たが、未だに結末がつかず、愈々長期戦の形になつて居り、日本も長期應戦の建前で、第一次近衛内閣當時から戦つて居る。實際問題として、この戦争の形に於ては確かに日本は成功してをる。併し蔣介石の見てをる點は、戦争には負けても、銃後の日本は長く頑張つてゐるうちには困つて來ると考へ、それを今以て待つてゐる。従つて日本は蔣介石の考へ方に乘つてはいかぬのである。蔣介石が何年頑張つても日本は何年でも續き得るといふ形に行きさへすれば、この戦争は必ずや勝ち得るものといはなければならぬ。こゝに大なる覺悟を要するのである。而してこれに對して、蔣介石と行動を共にしてゐる諸外國は、日本の國內の結束が亂れるやうな作戦を採つてゐることも明白である。

例へばアメリカの日本に對する作戦こそ日本として一番考へなければならぬ問題である。即ち日本の物資、殊に戦争に必要なものは石油であり、或は屑鐵であるが、これらは主としてアメリカに依存してをる。これは日本の弱點である。アメリカはその弱點をうまく利用して日本を困らせやうといふ作戦に出てをることは、事變四ヶ年の間に徴して明白ではないか。アメリカの過去に於てとつた行動は、先づ事變が起つた當初に於て、日本に對して通商條約廢棄の通告をして來た。そして昭和十四年の一月二十六日に遂に通商條約の廢棄通告の満期日が來た。ところが満期日が來ても、アメリカは實際は貿易上なものでもない。又當時の日本外務省の聲明を見ても、通商條約は廢棄したけれども、日本とアメリカとの經濟關係は何も支障はない、と云つて居る。又事實その通りであつた。併し事實上に於ては、年々日本に供給する數量を減じてをる。この事實を見逃してはならない。今何の爲にさうしてをるか。

要するに、若し昭和十四年一月二十六日の通商條約廢棄満期日の到來した時に、經濟斷交をやつたならば、日本國民は感情の國民であるから、その感情が爆發して

日米戦争が起りはしないか、といふことより、日本國民の感情を刺戟しないことに重點を置いて居るのである。その後には、禁輸する／＼といひながら、事實上取引をしてきたことは、日本國民の感情を刺戟しないやうにして、漸次日本に對する供給を締めやう、といふ考へがあるからである。言ひ換へれば日本國民の感情を阻害しない範圍内に於て、日本自體を榮養不良に陥らしめ、衰弱せしめやうといふ作戦を採つてをるのである。従つてアメリカが取引をしてゐてくれるから、まあいゝといふ感じを以てアメリカに當つて居つたら、遂に日本はこのいゝ機會を逸して東亞の共榮圏の確立は愚か、支那事變も或は不幸の結果を齎すのではないか。そこで現在の日本として探るべき道は、斷然アメリカのこの作戦に對して、日本自らが逆にアメリカと經濟斷交をやるといふ決意を近き將來に於て決めなければならぬといふことである。

かうしてゐては、じり／＼と日本が榮養不良になり、終ひには戦ふ氣力も何もな

くなるから、一日も早く、逆に日本からその手を打つといふことを考へなければならぬ。果してそれをやつて日本は大丈夫か、といへば、それをやらなければ日本のいふ東亞共榮圏は解決出來ないのである。即ちアメリカとの經濟斷交は東亞共榮圏の解決を意味するので、それが出來ればアメリカとの經濟關係が破壊されても何の心配もない。何となれば東亞共榮圏内には鐵も石油も豊富にある。その他必要なる物資、例へばゴムにしても、錫にしても、或はニッケル、クロムにしても、かういふ戦争に必要な物資が豊富にある。この戦争の爲に使つても尙餘りある物資がある。これを押へることが先決問題である。今それをやるならばアメリカとの經濟斷交は日本として何にも恐るゝに足らぬ。

殊に三國同盟が締結された以上、これを解決することが日本にとつては勿論のこと、同盟國である獨伊にとつても、是非とも必要なる行動である。即ち獨伊の物資を補給するに就ても、日本が東亞共榮圏を確立することに依つて日本自ら補給して

やれるのである。これに依つて盟邦ドイツ、イタリーを救つてやる事が出来るのである。これをこの際一日も早く断行せねばならぬのみならず、支那事變を起した當時の目標が前に述べた通りこゝにあるのである。更に支那事變そのもの、終局といふものは、この東亞の共榮圏を確立せずして、結末をつけることは出来ない。即ち根本は支那と日本との戦に非ずして、蔣介石膺懲は更に進んで、敵性白人の膺懲がその目的である。これをなさずして支那事變の處理は、出来ない相談である。故に東亞共榮圏の確立と支那事變處理は併行して結末がつけ得られ又つけるべきものである。

(52)

六、東亞共榮圏の確立と日本の經濟

そこで東亞共榮圏の確立に依つて日本の經濟は一體どういふ形になるか。先づ東亞共榮圏とは、我々の主張は東經九十度から、東經百八十度までの間に介在する北

から南に互つた範圍である。この範圍には獨立國としては、日本、滿洲、支那、泰國がある。その以外はビルマ、英領海峽植民地、濠洲、ニューギニアの英領植民地、東印度オランダ植民地、又印度支那のフランス植民地、フィリッピンのアメリカ植民地等がある。これらの範圍は大體面積からいふならば、世界の領土の約一割八分に當つてをり、人口は七億二千萬であつて物資は非常に豊富である。

それはこれらの範圍内に於ける貿易勘定で明白に示してをる。支那事變前、昭和十年を標準としてみると、日本は七千百萬圓の入超である。滿洲が二億四千萬圓、支那が二億四千八百萬圓の入超である。然るに南方に於ける諸領土は何れも出超の形をなしてをる。即ちフィリッピンが三千萬圓、佛領印度支那が八千三百萬圓、泰國が七千八百萬圓、海峽植民地が二億一千萬圓、ビルマが三億、蘭領東印度が四億一千萬圓、濠洲五億八千萬圓、斯の如き大きな出超であり、これを一團としての東亞プロツクが形成された。嗚に於ては、この東亞共榮圏内の所謂貿易勘定は十五億

(53)

四千萬圓の輸出超過となる。この事實を見る時、如何に東亞共榮圏内に物資が豊富であるかが分るのである。従つてこれが解決された暁には、アメリカといはず、ヨーロッパ諸外國といはず、この東亞共榮圏に依存しなければこれら諸國の經濟が成り立たぬといふことも明白である。

假に差當つての問題を考へてみても、この蘭領東印度と海峽植民地との特産であるゴムの如きは世界で消費される九割であり、錫は約七割といふ莫大な數量を産出してをる。従つてこれだけに依つても、當然アメリカの經濟の一部を押へ、ヨーロッパの經濟の一部を押へることが出来るのである。兎に角全部を解決せずとも、この一部を解決することに依つて、日本の現在不足してをる物資はこれにて完全に補給され、且つこの物資が解決されることに依つて持久戦が成り立つ譯である。これに手を染めずして持久戦を探ることは、事實不可能である。その代りこの解決さへつければ何の心配もないといふことになり、國民に大きな希望を持たせることが出来る。

國民に大きな希望を持たせるといふことは、この戦争目的を遂行する上に於て絶対必要である。かゝるが故にどこまでもこの目的に向つて一日も早く邁進せんことを希望するものである。それにはこゝにアメリカとの經濟斷交も辭せずといふ決意を以てかゝらなければならぬ。

七、石油問題についての考察

石油問題に就て少しく考察して見やう。一部ではアメリカが石油を賣つてくれなければ蘭領東印度で買ふ、といふ安易な氣分を持つてゐる向もあるやうだが、これは認識不足も甚しい。何故かと云ふと、蘭領東印度の本國はドイツが今占領して居るけれども、蘭領東印度そのものはまだ全くドイツの勢力範圍ではない。實は依然として英米の勢力範圍であるから、蘭印に頭を下げるといふことは、即ち英米に頭を下げたのと同じ結果になるので、結局先に述べたアメリカの作戦に乗せられるこ

とになる。日本に敵性を示す國の手に乗つたら、遂に支那事變の結末も或はまづい結果になるのではないか。ここに、國民の決意をすべき時が來たのではないかと思ふ。

一體蘭印は世界石油生産國として第五位を占め、その原油製産高は一九二六年頃は三百萬桶程度であつたが、近々十年の間に飛躍的増産を示し、一昨年は七百九十萬桶と、實に八百萬桶臺に肉迫した。この原油の生産はローヤル・ダッチ系のバタフセ石油會社、スタンダード石油系のオランダ植民地石油會社で九割以上を占めてその外蘭印石油會社と云ふのがある。これらの大會社は各地に十數ヶ所の精油工場を設け原油を處理し、その他揮發油、燈油、パラフィン蠟等を生産して居る。要するに蘭印石油に對する英米の資本的壓力は絶對的なものであつて、このことに關する限り蘭印に於けるオランダの獨立性は既に久しい以前から怪しくなつて居るのである。而かもローヤル・ダッチ及びスタンダード石油の共同出資に成るニューギネ

ア石油會社は、無盡藏と稱せらるゝニューギネア油田開發に當つて全然他國の資本の參加を拒絶して居るのである。かゝる事實を見ても今次の我が石油交渉に於て、如何許り英米側が蘭印の背後に於て摩手を操つて居るかは、想像に餘りあるのである。實に日本國民全體が問題の徹底的解決に向つて重大決意をしなければならぬ所以である。

而かも聞くところによれば、萬一の場合を慮かつて、彼地に於ては採油設備を備破する準備が出來て居ると云ふ。假に先方で爆破してもその修理にはたかく一年を要する程度であらうと思ふ。殊にボルネオの石油は世界中に於て一番油層が淺くこれは日本にとつて非常に恵まれて居る。普通の鐵脈のやうなものであると、ダイナマイトで爆破されると、鐵脈を見失ふ恐れがあるが、この油田は恰度池になつて居るのである。地殼の變化の時に池が出來、其處に石油が溜つて居る譯であるから、爆破されても又其處を掘れば出て來るのである。深さは大抵地下五百米、千五

六百尺も掘ればいゝのだから二ヶ月でボーリングだけは出来る。それにいざと云ふ場合全部壊さうと思つてもさう簡単には壊せない。掘る道具の外露管とパイプさへあれば樂に掘れるのである。

八、東亞民族六億の指導

さて、東亞共榮圈が確立され、これらの圈に日本商品がどの位入るかと云ふに、昭和十年の實績を標準にとると、先づ最低十五億圓、最高三十五億圓であるからこれだけ日本は輸出貿易の増加を來す勘定である。かく考へる時、この共榮圈が出來れば、現在の日本の産業設備では到底生産し得られない位の莫大な物資を要する時代が來る。さうなれば日本の産業界は驚くべき勃興を來すであらう。

併しながら若し日本にして、かやうの時に國內に於て國民が不平をいふとか、或は何か争ひが起るといふやうなことが若しありとすれば、ヨーロッパ人が今ヨーロッパ

ツべて争つて没落期に入つてをる如く、それがやがて日本民族自體の没落になるのである。折角絶好の機運に遭遇しながら、このチャンスを取逃すことになるのではないか。

そこで日本國民としては、この機會に雄大なる抱負、希望に燃えてこの目的を達成しなければならぬ。同時に又日本の爲政家も國民をして希望に燃えしめるやうに導いて行かねばならぬ。我々日本國民の現在の人口は一億である。然るに東亞共榮圈の確立された際には、一億の國民が六億の東亞民族を指導して行かなければならぬ。何としても此際は堅忍持久、東亞共榮圈の確立を一日も早からしめるためにお互が協力すべきである。そして各自がその本分に從つて御奉公すべきである。例へば軍人は戰場に於て、役人は役人らしく其本分に從つて、又産業人は戦時經濟の運営に責任を以て擔當して行かなければならぬ。これ各自が職域奉公の誠を致し、自我功利を抛つて、眞に皇運扶翼に生命を捧げる臣道の實踐に外ならぬと思ふ。

第四章 最近の支那事情を報告

情報局情報員
陸軍少佐

西原龍夫

一、北中支の面目一新す

去る四月の始め、私は約二週間北中支の旅を終へて歸つて來た。北支へは三年半振り、中支へは一年半振りの訪問であつた。

昭和十二年七月十五日、丁度、蘆溝橋事件が始つて間もないころ、私は天津の北支軍報道部で勤務をしてゐた。廊坊事件、南延攻撃、通州虐殺事件、天津襲撃事件と、日支關係は次第に悪化し、擴大か不擴大かの息づまる様な幾夜かを過したのである。

あのころの天津、北京は、實に險惡な雲によつて蔽はれ、戦火は遂に天津にも北京にも襲ひ來つた。機關銃、小銃、迫撃砲の響、燃える建物、木葉徹塵に破壊された家屋、血走つた眼——戦慄と恐怖と陰慘とに包まれた天津、北京が、今ではすっかり生れ變つた様になつてゐた。

蜂の巢の様に敵弾を受け、最後の一兵まで我が守備兵が戦ひ抜いた天津東停車場の跡や附近の家屋も、今はすっかり修復されて、當時の慘憺たる光景は當時を知つてゐる者でなければ到底想像すらつかない。

廊坊驛や、さては南延、豊臺の戦場も殆んど當時の面影を認める事は出来ない。老若男女、思ひのま、嬉々として戯れ、平和な空氣に溢れてゐる。道ばた一杯に店を開いて、丁度日本の夜店の様に——此處では晝から夜店を出すのであるが——日用品、雜貨類、飲食品を賣つてゐる。賣る者買ふ者が雜然として、朗かにもみ合つてゐる。これが支那町風景である。時々若者が何か譯の分らない鼻歌を大きな聲で

歌つて通り過ぎて行く。確かに安居樂業を謳歌してゐる様に見える。彼等が何故あんなにまで徹底した抗日意識に燃えてゐたのか、了解に苦しむものがある。

抗日の魔の都上海の復興ぶりと變りかたも亦、私を少からず驚かしたものの、一つであつた。

八十萬の中央軍の精銳に對し、皇軍が勇壯無比の上陸作戰を敢行し、赫々たる武功を收め得た上海郊外一帶の地區も、今では美しい野花が咲き亂れ、或は麥畑や菜畑と變つて、血なまぐさい。激戦の跡は偲ばれない。東京の震災跡の様に慘憺たる廢墟となつてゐた吳淞の町も、北停車場を中心とした上海市街も、すっかり取りかたづけられて、復歸した支那人が樂しさうに住んでゐる。一年半前に私がゐた當時に較べて格段の差のあつた事に一驚した。更に私を驚かしたものは、上海租界の親日的雰圍氣であつた。

なにも上海に限つた譯ではないが、排日運動の中樞は英米の絶對權勢下におかれ

てゐる租界である。天津、北京、上海、漢口、廣東の各都市には、英、米、佛等の絶対優勢下のいはゞ彼等の領土の様な租界と言ふものが存在してゐて、こゝを排日戦線のトーチカとして、思想戦、宣傳戦を武器に支那大衆を煽動しながら帝國に拮据してゐたのである。上海租界はその錚々たるものであつた。従つて、黃浦江以南の英米治下の租界は、排日一色に塗りつぶされて黃浦江にかゝつてゐるガーデン橋の北端と南端では、ハッキリとその險惡な空氣を見分ける事が出来た。日本人は危険で、殆んど河向ふ——黃浦江以南の英、米、佛治下の租界をかう呼んでゐた——に行く事が出来ない様な有様だつた。支那人の目つきまでが違つてゐた。

それが、昨今は全く一變してゐる。これは、もとより目まぐるしい世界狀勢の變轉の餘波を受けて、次第に凋落しつゝある英勢力の減退を反映したものと云へやうが、結局我が東亞新秩序建設の一步々々前進してゐる事を意味するものである。よく言はれてゐる様に、上海租界は實に我が東亞新秩序建設のバロがーターである。

あれだけ横暴を極め、徹底した排日毒舌を振つてゐた英米系の新聞、たとへばイヴニング・ポスト紙、チャイナプレス紙、ノース・チャイナデーリー紙等も、最近是非常にその論調を變へて來た。これに比例して、申報、大晚報の様な英米系排日支那紙——排日支那紙の大半は英米系である——も次第に我が當局の彈壓によつて影をひそめてゐる。かくて、抗日言論機關の退陣は租界の排日空氣を愈々肅清して清新明朗な上海が生れつゝある。租界に住む二百萬近くのインテリ支那人や大衆が英米の笛に離らなくなり、次第に帝國の眞意を悟り、汪政權の威令に服す様になつて來た事は、確かに我が東亞新秩序建設の飛躍的前進を示すものである。

昨今の上海は實に氣持がよい。デパートや劇場や、さてはレストランあたりで支那人の日本人に接する態度が實に親しみのもてる感じのよいものになつて來た。以前は日本人と見ると無愛想で、時には敵意を露骨に見せてゐたところが、昨今は非常に親切で丁寧である。よく抗日ダンスと言ふ事が言はれてゐたが、これは租界

のパラマウントとかシロスとか言ふ大きなキャパレールで日本人が支那のダンサーと踊る時、彼女等は露骨に對日敵意を表はすために出來た言葉だ。最初は非常に明かに愛想よくステツプを踏んでくれてゐたダンサーの姑娘が、急に冷酷な態度になつてしまふ。支那語を知らない日本人が、最初は無言のまま、踊つてゐる。その時は流石の姑娘も日本人とは氣がつかず、スマートな支那人か、フィリッピン人だと思つて愛想よくステツプも軽くをどつてくれる。ところが英語で話しかけると、忽ち日本人と言ふ事がばれて、とたんに冷酷になり、敵意を示した形相物凄く、重い足取りで不愉快極まる抗日ダンスが始まるといふ譯である。

しかし、昨今は全くこんな不愉快な事もなくなつたさうである。こんなつまらないところにも排日的な空氣が次第に消え去り、なごやかな明るい空氣が甦へつて來たのである。嘗ては山田耕花氏主催の下に、音樂會すら開く事の出來なかつた上海租界、排日宣傳と抗日ダンスとテロが錯綜してゐた租界！ 私は、たゞよくもかく

變つたものだと思つて感銘にうたれた。

汪政權治下の新支那は次第に甦へりつゝある。之に反して、重慶政權治下の支那は物資は潤渴し、法幣は下落し、物價は暴騰し、經濟恐慌の一步手前まで立ちいたつてゐる。

英米が躍起となつて法幣安定資金を借款し、我が對支通貨工作に抗せんとしてゐるが、滿身これ創夷の重慶政府を蘇生さす事は最早や到底不可能であらう。法幣の低落が如實に之を物語つてゐる。丁度私が上海にゐた頃、三月中旬頃であつたが、軍票百圓が法幣二百三十五弗であつた。

新支那の通貨は、目下のところ北支に於ては聯銀券、中南支に於ては、軍票をもつて行はれる。爲替相場をねらつて暴利をむさぼり、或は我が經濟擾亂を行はんとする不良分子を取締るため、北支も中支も實に徹底した通貨の統制を行つてゐる。北支の關門山海關に行く、旅客はすべて聯銀券に交換し、又中支にはいる時は上

海或は徐州等の關門で、必ず軍票と交換しなくてはならない。従來は北支中支内て隨意に交換が出来たが、今はこの關門以外では絶対に出来ない。しかも最高額二百圓である。

この通貨統制は實に嚴肅に行はれ、不良分子の惡業や經濟擾亂を封じ去つた感がある。聯銀券が通貨として堂々と用ひられてゐるのは別に不思議とは思へぬが、中南支で軍票が非常に堅實味をもつて流通され、法幣が英米の數千萬弗の安定資金を得たにもかゝらず、軍票に對し非常な低調を示してゐるのは、何と言つても、帝國の東亞新秩序建設に對する實力を物語るものと言ふべく、心強く感ずる次第である。

日支合辦の北支開發會社、中支振興會社の開發業務も次第に板につき、鑛業資源が次第に開發されつゝある點も亦、事變の前途に非常な曙光を與へてゐるものと言へやう。殊に北支の鐵、石炭等の重要物資が大規模に開發されつゝある點を重視し

なくてはなるまい。北支否、東洋の寶庫山西省の重要資源がどしどし大沽に青島に運ばれて、戰時日本の原動力となつてゐる。

津浦線、京漢線、同浦線等の南北縱貫線の間に數本の横斷聯絡線が出来上り、又自動車道路の開設も成つて、今や全力をあげて我が東亞新秩序建設のために支那の豊富な埋没資源が開發されてゐるのである。支那事變といふ大業はさう簡單にはまわらないが、一步々々前進しつゝある點を知り、愈々希望の彼岸に突進して行かねばならない。

南京も次第に首都としての形態を備へ、活潑な發展をとげてゐる。汪政權の軍事政治、經濟、思想、教育、文化の中樞部も愈々完備され力強い發足を示してゐる。

一、北支蒙疆の指導權

地理的歴史的に見て、北支蒙疆の帝國國防その他に對する特殊性を認めなければ

ならない事は勿論である。これは又、汪政權正式承認に當つて、日支條約中に明瞭に認められてゐる重要な點である。

北支蒙疆の特殊性と言ふ事は、結局、日本の指導權を多分に認めると言ふ事になるのであつて、この點中南支と非常に趣きを異にしてゐるのである。もとより北支は北支政務委員會、蒙疆は蒙古聯合委員會の支配するところであるが、所謂その特殊性を實現するためには、目下特に戰鬪行爲が全面的に展開されてゐる現況に於て北支派遣軍の活動に俟つところ頗る大なるものがある。英米勢力の退陣も北支から始つた如く、帝國の絕對指導下に正しい北支を、否、新支那を創設するのが、今次聖戰の目的であるのである。従つて、英米の植民地化せんとした支那をその毒素を拂拭して、清らかな支那とし、日支共存共榮を圖らなければならぬ事は自明の理である。

かくて、北支派遣軍當局の重視してゐる點は、如何にして正しい明朗な北支を作ら上げ、しかも帝國のため北支蒙疆の特殊的存在を意護あらしめるかに在る。であるから、一方に於ては極力治安工作を武力によつて進めると共に思想、文化、經濟工作によつて一路健全な北支の建設に邁進してゐる。

これがために、その基礎となるものは思想工作である。こゝに於て北支軍報道部の使命の極めて重大な事が分るであらう。北支蒙疆方面は中南支と違つて、その作戦は本質上、全く陸軍の手によつてなされてゐる様な次第で、従つて軍に武力戦のみならず思想、宣傳、經濟戦等の分野も軍によつて統轄されてゐる。もとよりこれ等は、北支政務委員會の熱心な活動による事大であり、又その實績も見るべきものがあるけれども、北支蒙疆の特殊性の基底を固く作り上げるまでは、どうしても北支派遣軍の力によらなくてはならない。

中南支方面でも、陸軍の報道部の活動はすばらしいものがあるが、この方面は英米の既成勢力が根強いものがあるばかりでなく、その影響を受けて抗日意識に燃え

てゐる支那民衆の數も多く、出来るだけ自然的に、且つ巧妙に思想戦を展開して行く必要がある。

かくて中南支方面では、主として汪政權の宣傳部が、東洋永遠の平和と幸福のために堂々と對支宣傳を行ひ、英米等のために歪曲され、蔣介石によつて焼きをいれられた支那民衆の思想工作に従事してゐるのである。

事變前には、北支も亦英米等の言論機關により、徹底した排日宣傳が行はれ、大衆の思想も排日一色に塗りつぶされてゐたが、今ではこの英米の排日思想工作は全く掃蕩されてしまつた。天津と北京には獨、伊、英、米、佛、蘇等の通信社や新聞社の通信記者がゐて、花々しい宣傳戦を展開してゐた。事變直後の天津は英、米、佛の通信員や記者の排日宣傳のセンターであつたが、今は全くその面目を一新した感がある。嘗ては北京天津タイムスやノース・チャイナ・スターの様な排日英字紙が多數發刊されてゐたが、今ではその多くは親日に轉向し、或は廢刊されてしまつた。

これと同時に、十數種の排日支那紙も影をひそめ、五百種近い排日支那雜誌も一掃されてしまつた。かくて明朗北支は、先づ新聞雜誌からといふ譯で、全く面目を一新するに至つた。その他映畫、演劇、レコード等に至るすべての文化娛樂機關が正しい北支の脚光をあびて、我が北支軍報道部の指導の下に活動し出した。こゝに於て北支の特殊性も、その思想的根柢から固められてゐる。

清新明朗な、東亞新秩序建設戦に協力してゐる北支の新聞は、今や五十種に垂んとし、雜誌は七十種近くも發刊され、いづれも軍報道部と北支政務委員會宣傳部の指導をうけてゐる。

三、汪政權の猛烈な活躍

北支激強にひきかへて、中南支方面では、汪政權の猛烈な思想戦が展開され、我が中南支派遣軍や海軍外務出先機關の指導の下に、一路新支那の育成助長に邁進し

てゐる。

抑々、支那政府の財源は鹽稅、關稅等によつてその殆んど總べてを賙はれてゐるのであるが、今やその九〇パーセントが汪政權に接收されたのである。従つて蔣介石は非常な財政の窺乏に陥り、その上、皇軍によつて重要地點の大半を占領され、五ヶ年に亙る戰爭の打撃は莫大なるものであり、第一線部隊の戰意が頓に衰へ、歸順部隊が續々出て來る様な仕末で、全く衰亡の兆が見えて來た。更に國共相剋、華僑の離反も蔣介石の大きな悩みの種であるばかりでなく、日蘇中立條約の成立により蘇聯の援將の情熱の冷めた證據は如何ともしがたく、その上、英米の援將は實際上何にも役立つてゐない。こんな工合の悪い條件が重なつてゐる所に、汪政權の峻烈な宣傳戰、思想戰が展開されてゐるのである。その効果は正に百パーセントと言ふべきだ。最近頓に重慶政府の要人達が動搖し出したのはこれがためである。もとより蔣介石の監視の目が鋭く光つてゐる現在では、さう簡單に重慶政府の瓦解は望め

ないが、その兆が見え出したのは、確に我が事變處理の強みの一つである。

かくて、汪政權の行ひつゝ、ある思想宣傳戰は、汪政權宣傳部長林伯生氏の熱意と氣魄によつて非常な効果を擧げてゐる。本部は勿論南京にあつてその支部を上海に設け、日夜猛烈な宣傳戰を展開してゐる。前にも述べた様に、上海は實に抗日思想戰の坩堝であつて、ついこの前までは手がつけられなかつたのが、最近は非常に肅清されたのである。

林伯生宣傳部長の直接指導してゐる親日支那紙も非常な勢ひで發展しつゝ、あつて殊に中華日報の進出振りはすばらしいものがある。現在、汪政權宣傳部の發刊によつて、帝國と密接に協力しつゝ、反共和平を唱へ、東亞新秩序建設戰に力を添へてゐる親日支那新聞は、中支だけで五十種以上に達してゐる。その他親日支那新聞を擧げれば二十種以上を算へる事が出来るであらう。

又、從來上海を根城として抗日排日を怒號し續けてゐた支那雜誌は百三十五種の

多數に上つてゐたが、此等も我が軍當局の彈壓と汪政權宣傳部の活動によつて逐次影をひそめる様になつた。汪政權の指導しつゝある雑誌も漸くその數を増し、今や五十種以上に達してゐる。

その他、放送、映畫、演劇、レコード等の文化思想宣傳機關も亦、往時の面目を一新し、汪側の手にはいつて來ると共に、中文軍報道部の適切な指の下に、健全な歩調をもつて我が東支新秩序建設戦に協力しつゝある。

四、結 言

僅か二、三年後に於いて、私が見た新支那の姿は、かくも偉大な進歩を示してゐる。もとより北、中、南支の廣大な戰場に於ては、今尙夜を日についての討伐、戦闘が皇軍の手によつて續けられ、治安の完全を期するには尙遠きものがあらう。しかしながら、陸に空に海に闘はれてゐる我が皇軍の血みどろの奮戦力闘と、汪政權

の健全な發育とによつて、新支那は次第々々に力強く建設されて行く。東亞新秩序は新支那の建設によつて、思想的に經濟的に文化的に築かれて行く。曠古未有の到底想像もつかない大きな支那事變は、かくて、一步々々解決への曙光を見せてゐる。愈々あと一息のがんばりである。

けれども、その次に來るべき敵性國家の策動を考へる時、我等は更に數段の努力と奮起とを誓はなくてはならないのである。

今回即ち昭和十六年六月十七日、國民政府主席、行政院長汪精衛氏並にその一行が新政府組織後初の歴史的晴れの來朝をされたことは、緊迫せる國際情勢と事變處理の打開速進に重大意義を持つものであつて、國民は滿腔の熱誠をもつてこれを歡迎し敬意を表した次第である。

今や事變は世界的規模の範疇に入り、長期化せる過程を辿りつゝあり、この際根本案源の解決を急速に期待することは不可能であるが、汪主席が敢て身を挺して來

朝され、我が當局と緊密なる協議聯繫の下に、大東亞共榮の共同目的の達成のために烈々たる熱意を發揮せられたるは、我が朝野の衷心より歡迎するところであるとともに、更に一層國民政府が強化され、我々と一體的協調をもつて事態處理に邁進されんことを切望するものである。

第五章 日本國民の使命

二、戦争は人類の歴史だ

第一次歐洲大戦後世界の状況は混沌として常に異常の變化と、波瀾を仔みつ、何時も燃え上らんとして、燃え上り得なかつた事情は、如何に第一次歐洲大戦の創夷が大きくて深かつたかと思はせるに充分であらう。

しかし戦争は人間が生存する上に於ては付きものである。國際交通の開けぬ時代にあつては、国内の内亂は引つ切りなしに續いた。我に源平あり、元龜天正の時代があつた。支那に春秋の戰國あり、之を過去にさかのばれば人間の歴史は、平和と

戦争のあざなへる繩である。今日まで三十四世紀にわたる間に戦争は大小とりまぜて三千百五十年を超へ、平和の年は僅かに二百七十年に過ぎないのである。しかも之に締結せられたる平和條約の数は八千以上にものぼり、一つの平和條約の有効期間は平均して、わづかに二年である。

それに引きかへ、第一次歐洲大戰に於て結ばれたるヴェルサイユ條約の有効期間は最も長かつた。何分にも歐洲大戰の地域は廣く、其の戦禍はあまりにも痛ましく深く、痛手にすつかり手を焼いた形であつた。さればこそあれだけ無理な不自然な條約であつても、隨所に不平不満の聲が絶えず起りつゝ、戦争となるべき事件が常に續發しながらも、勃發せずすんだのであつた。

それが遂に来るべき日が来た。今次大戰の爆發した時、我等は究極に於て来るべきものが遂に来たのだと直覺したのである。持てる國は極めて少數の移殖民（出稼人）のために、廣大なる土地を占有し物資を獨占して、持たざる國を人的に物的に

あらゆる障壁を設けて壓迫した。元より何れの國と雖も戦を好んで押しつけたのではない。勢の赴くところ遂に實力により角逐せざるを得なかつたのである。英國は佛と手を握り獨逸をして手を引かしめんとして、屢々汝が立てば我も立つてあらゆるの決意を示した。それがため獨逸が立つたから英國も立たざるを得なかつたのである。獨逸とても最後は英國をたゞき付けるにしても、それまでに血ぬらずして目的を達すべく、伊太利と結び、日本へ呼びかけた。さらに波蘭を屈服せしむる爲めソ聯と握手した。百八十度の轉回はヒトラーの外交道徳だからだ。遂に戦火は擧がつた。いつかはどこかで爆發すべき運命に置かれてあつたからである。

二、世界の新秩序はかくて

さて今次の世界大戰はその勝敗の何れに歸するかは分らないが、いづれにしても今までのやうに價金を取る、國境線を塗りかへるといふだけでは納まらない。獨逸

は戦争繼續の目標として世界新秩序の建設のためといひ、英國は英國で敵はドイツ國民ではない、飽くまでもヒトラー及びその一黨を絶滅して歐洲の平和を確立するにあるといふ。東亞にありては我國は日支兩國は協力して、東亞新秩序の確立に進まふといふに似てゐる。

世界新秩序の建設は大體に於て、アメリカ、歐羅巴、露國、東亞といふ四大プロツクに分かたれてゐるが、世界の各所に散在する領土を保持し、守備してゆかなければならぬ英國はこゝに最大の腦みがある。

東亞に於けるプロツクは己に、しばしば聲明されてゐる通りである。それはアメリカ・モンローの如く、亞細亞のモンローである。同じことがまた歐羅巴に於ても起りつゝある。それは地理的に相つながら、結ばれて行くといふ以外にも、經濟的な紐帯が堅く自然に結ばれて行くからである。

試みに支那千萬平方キロの地は、原料を入れるにはあまりにも大きな資源であり

また四億四千萬の民衆は顧客として莫大な消費者である。従つて歐米各國は支那を半植民地として、租界を設け物資をどしどし賣込み、さらに民衆の生活向上によりその消費の分量を増すが爲めには借款を供與する。或は文化設備の材料を送り込む等、實に飽くなき搾取の連續であつた。

しかし日本はどうか。日本は持たざる國として支那とは競争にならぬ。それどころか今まで英米から輸入を仰いでゐた原料が、近い支那から多量に出ることは、まさしく共存共榮の實をあげることになつて一層東亞のプロツクを堅固に經濟的に結びつける事となるのである。

三、重大なる民族の使命

今や地球上に生存する人間の数が約二十一億として、その約三分の一の七億二千萬人の白色人種が、残りの十三億八千萬人の有色人種を支配してゐる。地域からい

へば極地を除いた陸地一億三千五百萬方キロの九割が、總人口の三分の一の人間に支配されてゐる。

さらに現實にいへば三十二萬のイギリス人は三億五千萬人の英領インドを支配し二十萬人のオランダ人は六千萬人の蘭領インドを支配し、三萬人のフランス人は二千三百萬人の印度支那を支配してゐる。これらは實力の相違て如何ともしがたいといへば、それまで、あるが、さうした不自然な世界の舊態勢が果して恒久的に不變のものであらうか。繼續していゝものであらうか。こゝに我々日本民族の使命の重大さを感じざるを得ないのである。有色人種は絶対に白色人種に劣つてゐるものであらうか、否かつてはサラセン民族はスペイン、ポルトガルの地へ、トルコ帝國はバルカンへ、蒙古の大軍は歐洲の天地を震撼させたてはないか。

日本の地理的環境及び萬邦無比の國體は、我等日本民族に確固不拔の信念を植へつけてゐる。極東の島嶼にあつても決して妥協として桃源の夢を貪つてはゐない。

やれフアツシヨだ、共產主義だ、と世界の何れに現れた動きても直ちに、これが反映され衝動を與へる。

大政翼賛會が創立されて、新體制はぐんぐん進んで行く、それは要するに現状打破であつて、假令支那事變が片付いたからとて、東亞共榮圈の國防と治安維持、産業開發のためには新體制は絶対に對である。人と物を如何に國家の合目的に向つて總動員するか、いかにしてその機能を發揮するか、徳川慶喜をしてかくあらしめた明治維新を想到すれば、昭和維新の回天動地の大業はまだぐんぐんこれからだと思ふ。國民は最後の一人となるまで陛下の御爲めに、御楯となつて奉公の誠を盡さなければならぬ。自分一人の力を如何にすればより多く國家のために盡し得られるかを、朝夕に反省して、常に最善の努力を致さなければならぬ。これが日本國民としての絕對の御奉公である。

後篇

第六章 戦争と婦人の動員

一、生産擴充と女性の訓練

近代戦は兵力と兵力の戦だけではなく、國民全體の戦となり、一國對一國の戦のみでなく、國家群と國家群との戦ひとなつた。隨つて政治も、外交も、經濟も、産業も、教育も、宗教も、思想も共に戦争に参加し、その總力によつて決する、所謂國家總力戦である。

この形態を即ち廣義の國防と名づけ、その各々が、この廣義國防の構成要素である。

この廣義國防の構成要素である一つ一つが如何に充實されても、これを無統制や個人主義の爲すに委したのでは、國家の總力を充分に發揮することは出来ないのて

ある。

かの第一次歐洲大戰に於て、精銳無比の軍隊を擁した獨逸が、幾度か聯合軍を撃破しながらも、如何に物資の不足に苦しんだか、しかも之を解結し得ずして、一敗地に塗れたことを考へると、如何に物的資源、これらの構成要素たる、物的資源が國防上重要なかを諒解し得るのである。

然らば國防上重要な資源とは何を指すか。鐵、石炭、石油、銅、ゴム、棉花等の重要なものは云ふまでもなく、近時に於ける戰鬪形態の複雑化、戦争と經濟の結合は、國防資源の範圍をあらゆる方面に押し進めるに至つて、其の品目は枚舉に遑がないのである。従つて現代に於て此の多種多様の國防資源を一國內に於て充分に領有すると云ふが如きは、如何なる國と雖も不可能であつて、我國も亦國防資源の自給に付いては未だ完全なる域に達して居らないのである。此の意味に於て、生産力の擴充を圖ると共に全體が、各種資源の消費を節約し、或は既に使用したるもので

あつても之が有效なる更生利用を圖り、或は代用品の使用に努める等、長期經濟戦に堪ふるよう國力を涵養せなければならぬ。

資源の不足も恐るゝに足らず

昔、或る禪寺の僧が行水を使つた水を其の傍捨てた所、忽ち住職の一喝を喰つたと云ふ話がある。

只一回の行水で捨てられた水は永久に利用の價値を失つたが之を庭に撒けば埃を鎮め、又は草木の枯渴を防ぐに益する。茲に資源愛護の眞意を包蔵する。物は一寸した注意で二重三重の効果を擧げ、僅かの工夫で數倍の利用を計ることが出来る。一桶の水も斯くしてよく十荷の役を果し得る。九千萬の國民が等しく此の心を以て對處したならば、資源の不足も敢て恐るゝに足らない。

資源を愛護せよ

支那事變勃發以來我國は、國を擧げて、戦前に既後に國策遂行のため汎ゆる艱難

と努力とを惜まず國民一致協力してこの非常時國家興隆の爲めに力を注いで居る事は、寔に國家の爲めに祝福すべきことである。然し乍ら既後國民の安定なくしては長期建設に對して永續し堪え得るものでない。

古語に曰く「倉廩満ちて榮辱を知り、衣食足りて禮節を知る」とあるが、今更ながら國防の充實と食糧の自給と、戦争に伴ふ軍需必需品の自給自足とが急務中の急務である。

先づ眞先に感ずるものは、戦争必勝の爲め費される軍需資材であつて、これが大部分が海外よりの輸入に依つて需給されるものであるから、我々國民は、先づ國際收支の適合を圖り、國內工業を振興せしめる爲に國産品を愛用し、資源愛護の意味に於ては、廢品の回収に努めねばならぬ。

國內に於ける資源を活かす爲には、農産、漁獲の増進を圖ると共に、礦産物の増産獲得に對しては、凡ゆる犠牲を拂つても資源開發に努めなければならない。従つて國內に於ける現有資源を生かし、再生使用の目的の爲めには國民等しく、物の使用に當つて無駄を生じないやう心掛けるは當然の義務である。即ち戦後にある國民が舉國一致、熱誠溢るゝ聲援を送り、凡ゆる資源を國民が各々其の分に應じ全智全能を傾けて綜合運営し、以つて尨大なる軍需資材の補給に萬全を期することを忘れてはならない。

この重大時機に當つては、直接間接に軍需資材の供給を潤澤にするは勿論であるが、亦一方に於ても國産の振興を忘れてはならない。國産振興は國産愛用と相俟つて、國際收支の改善を目的とするもので、國防産業の維持發展は即ち、所謂生産力の擴充である。然るに我國は此の生産に伴ふ資源が甚だ乏しい。従つて此處に起るものは即ち資源愛護の聲でなければならない。

故に浪費を戒め、工夫して活用に努め、廢物と雖も忽にしない心掛けこそは、我々日常生活を充實する絶對の要件である。例へば一着の洋服も、平常の手入、縫繕

裏返し等に依つて二年の壽命を五年に延長し、後に子供のパンツに改造すればこれは用途の擴張であり消費の節約となる。更に改造洋服地の斷層、パンツのボロを賣拂へば其等は貴重な原料となり、再生されて立派な羅紗となり毛布となる。其の賣拂代金は新たな必要品を買入れる一助ともなり、他方に於て重要資源を回収し得る方途を開きたることとなる。

世間には不必要な家具、什器、ボロ、屑物等を徒に貯蔵し、何等利用の道を講じてゐない家庭も少なくないであらう。斯る不用品、廢物は宜しく整理し、整頓して、内には生活改善の實を擧げ、外に對しては原料を供給して生産力の擴充に貢獻するの心掛が必要である。

資源愛護は家庭から

即ち資源愛護は、先づ家庭から始まらねばならない。それには何よりも先に物が廢品とならぬやうに心掛く可きである。衣類の虫喰ひは大丈夫か、洗濯を怠り物の

壽命を縮めては居ないか、修理を厭つて益々破損を大きくしては居ないか、食料品の貯蔵、調理、廢棄に當り無駄はないか、手近な所からお互に今一度考へて見る必要がある。

物の利用の途が愈々絶えて、家庭内では全く廢品となつたときでも、唯之を地上に投げ棄てたり、物置や戸棚の隅に死蔵して置くことなく、成るべく原形を保ち居る中に古物屋、屑屋等に引渡し、之に更生流通の機會を與へるべきである。是等廢品は、他所で何等かの方法で更生され、再び利用の過程に導かれ得るのである。斯くの如き廢品處理は、即ち用途の合理的轉換に外ならざるものであつて、不用處分と云ふ消極的に感はされ、其の積極的意義を見逃す事のないよう、お互に留意すべきである。

以上の場合、一家の生計費を助けることは云ふ迄もなきことながら、電氣、水道等と異り、家計の上に直接現はれざる爲、同様の重要性を持ち乍ら屢々氣付かれず

に居るのであるまいか。

消費節約と廢品處理とは、取りも直さず資源愛護の精神の發露にして、其の利する所は、單に一家庭のみに止らず、此の資源愛護に依り、其の生産に要したる、原料、材料、動力、勞力等が節約せられ、その餘力は現に最も必要とせらるゝ部門に對し「生産力の擴充」を實現し得ることとなる。特にこれ等原料や材料が外國品なる場合には、其の節約に依り輸入數量を減じ「國際貸借の均衡維持」に寄與する結果となる。又生産力と輸入力とに一定限度のある以上「物資需給の適合化」を圖る爲にも、是非共、現在所持する物の効用を十二分に發揮せしめて、不要、不急の購入を慎み、之に依つて國家の緊切なる需要を充足し得る餘地を造る可きである。斯くの如く家庭内の資源愛護は、唯其の一家庭の爲のみでなく、社會の爲であり、國家の爲である。

近代國防に於て必要とする資源は、單に直接、兵器、彈藥等に用ひらるゝもの、みてなく、その範圍は殆ど一切の物資に亙つて居り、國防に役立たざる資源なしとも云ひ得る。然も家庭用品を製造する爲に要する原料材料は、何れも極めて重要な國防資源である。此の際、此の一事に思ひ至れば、家庭に於ける資源愛護は、我々が先づ以て爲し得る國防力への参加であり、又必ず爲す可き銃後の務である。特に家庭の婦人は留意す可きであらう。

女性の産業陣

一切の國家的事象が大きな轉換を遂げつゝある今日、女性の國家的役割について、の觀念もまた、根本的な變革を要請されてゐる。

一と昔前、すでに女性の社會的進出といふことが云爲された。しかし非常時と呼ばれる今日ほど、女の國家的役割の重要性を、決定的に認識させる時代はかつてない。そしてそのためには、工場管理、運営も女性の手によつてなされねばならず戦争による生産力の擴充と、逆に應召による男子の勞働力の不足とは、今日女子産業

戦士をあらゆる生産の戦線へとかりたて、戦後産業陣の大きな一翼を形成してゐる。それは、もはや「女らしき職業」と考へられた領域からは完全にはみ出して、男の戦場へとドシ／＼進出が企てられてゐるのである。今日わが國に於ける、女性産業人の總数は尤大な数字に上り、これ等の女子産業戦士が、旋盤、熔接、製圖、木型、鍛冶、齒切、組立、フライス、検査等々々、重工業のあらゆる分野に進出し筋力を主とする仕事以外、殆んど彼女らによつて手がけられないものはないのである。

第一次歐洲大戦當時、英國では女子労働者の数は四百八十萬人に上り、ドイツでは四百七十萬人の女性労働者が、男子労働者に匹敵する戦後産業の大きな成果を収めた。

今次歐洲大戦に動員された各國の男子の数は、第一次歐洲戦に比べて遙かに多く、いま獨ソ兩國の戦線には、少なくともそれ／＼一千萬以上の兵員が動員されてゐるといはれてゐる。時代の進展と、人間の發達に伴つて、戦争の規模がますます大きくなるのは、歴史の示すところであるが、戦争の規模擴大と共に、これに要する男子の兵員が増大するのは明白であらう。少なくとも世界の秩序を指導せんとする一流國家にあつては、理想實現の途上で、如何なる大規模の戦争に遭遇しないとも限らず、目的完遂のためには、すべての男子を戦場に送つて戦後産業にいさゝかの狂ひもないやう、常からの用意が必要である。こゝに女性労働豫備軍の整備が要望され、女子の國家的役割は、且つて女性史上に見ざる重大さを加へるのである。

二、國防保安と婦人の防諜

新東亞建設の爲め、私どもこそつて防諜の役をになはなければならない。

私共が、スパイといへば戦争のとき諸外國にのりこんで鐵道を破壊したり、貯水池に細菌を投入したりするものと考えやすいが、最近のスパイの活動は、武力戦に

協力する表面的な活動よりは、相手國が戦争に缺くことのできない、石油や鐵の生産國をそそのかして輸出をやめさせて困らせたり、相手國の人々に反戦思想を宣傳して戦争をいやがらせたり、または軍需工場の職工を煽動してはストライキをおこし、軍需品生産に妨害を加へたり、相手國の人口、思想、資源、生産、國防施設などのあらゆるものに危害を加へて相手國の戦争能力を破壊することに努めてゐる。では、この恐るべきスパイの活躍の根源地はどこかといへば、各會社、教會などに假裝して、秘密の活動をつゞけてゐる合法的な組織がスパイの根據地であつて、そこを根城に相手國の情報を集め、相手國の不利になるやうな宣傳を行ひ、相手國の戦争能力を破壊する謀略を行ふたりしてゐるのである。スパイの活躍方法もなるべく人に目だたぬ行動をとりつゝある。

たとへば、横町の某が應召したといふやうな話は、大した價値はなささうだが、この誰がどの師團に應召したといふ話を全國的にはりめぐらされた會社や教會な

どの綱からたくさん集めると、いま日本では、どの師團と、どの師團と凡そ何箇師團を動員してゐるかがすぐわかる。また外國人のスパイは、戦地へ出發する夫を見送るため汽車に乗つた婦人に近づき、子供をあやしてはどこへ行くか、何しに行くか、私はドイツの豫備將校だなどといつたり、歐洲大戰の話などをして主人の兵科名、出發日、目的地などを何げなしにきいてしまふ。

昭和十二年の九月二十五日といへば、支那事變が勃發してから、わづか二ヶ月餘りて、上海大攻略戦の直前である。このとき支那軍は敵の情報第一號といふ印刷物を將校にくばつてゐる。これは支那に派遣された日本軍の兵力、兵科の種類、大砲の數、指揮官の階級、氏名など非常にくはしく調べられてゐる。このやうな結果になつたのは、支那のスパイはもちろん、日本に好意をもつた敵性國家のスパイ網が集めた情報を上海に送つたため、實に日本人が知らず知らずの間に、何げなしに露つたことが、スパイの片棒をかついだ結果になつたともいへるのである。

彼等のなにげない情報のあつめ方として、各府縣の貨物自動車や乗合自動車の數は軍用資源保護法によつて秘密になつてゐるが、ある外國の石油會社は、いろいろのバス會社や運送會社などへ「ガソリンの販賣上の都合があるから貴社の自動車の數と種類とをお知らせ下さい」といふ通知を出して、すつかり調べたことがある。これを合計すれば府縣の自動車の數は大體想像がつく。

これらの宣傳のやり方も、何か新聞雜誌にもものつてない新しいニュースを知りたがる私どもの探求心といふか、弱點につけこんで直接本國のラヂオニュースを聴取し、すぐ印刷して本國のニュースはもちろん、日本國內でまだ新聞に掲載禁止となつてゐることまで、想像を加へて某國官邊の見解などと稱して商取引や社交場裡をはじめ、各方面に發送してゐる。見る人は日本の新聞にも發表されてない特種として得意になるので、自然にある事件について、ある國の宣傳をしてゐるわけである。

不戰條約やロンドン條約が結ばれた當時、諸外國の日本にたいする不利な宣傳が

日本國內でいかに巧妙になされてゐたかを今日になつて考へるとき、無批判な外國崇拜のおそろしさが痛切に感じられる。

戦争を續けるに必要な生産工場や軍需資源を破壊する謀略も、この宣傳といつしよになつて行はれる。ひと頃のマッチ不足のかけにも、これらの魔手がのびて、まうかりさへすればよいといふ商人の心理につけこみ、マッチを大量に買占めて品物が不足してゐる大陸に流し、某國は利益をうる一方、その組織網を利用して「買だめておかぬと大變なことになるぞ」「いま暫くマッチを賣らずにおけば一まうけてきる」などとマッチを不足させておいて宣傳をやつた。これに乗つて買だめ、賣おしみの間取引がおこり、マッチさへもないのかと、社會の不安になつて、政府はマッチといふ小さなことにまで、生産獎勵費を出さねばならぬといふ醜態をひき起した。それも結局統後の日本を經濟的破壊から人心の思想的破壊にみちびかうとしたこれらの計畫的宣傳に乗つたわけである。

この點からしても、自分だけよければといふような買ひだめは、反國家的思想であるから、十分注意すべきである。また外國人は日本人を手先につかつて飛行場の近くへちまをつくつてゐる人に、譯山の注文をだして喜ばせておいて、へちまをつくる参考といつて、飛行場附近の一年中の風向や風速、雨量などをきき、さらに飛行場の廣さ建物の大きさ、位置まできき、こんでしまふ。これが飛行場破壊謀略のたねになつてゐるのである。

このやうに、最近のスパイの活動は國民の一人々々にむけられてきたので、警察官や憲兵だけでは、とても防ぎきれない。そこで國民の一人々々がみな防諜戰士といふ氣持で、火の元の注意をするやうに、スパイに注意しなければならぬ。それには秘密をもらさぬといふ氣持だけでなく、私どもは日本人だ、日本を守るのは我々の任務だといふ積極的な氣持になつて務めなければならぬ。されば自分の持場を嚴重に守ること、自分の言葉をつつしむこと、持ものに注意すること、他人の言

葉や記事に輕々しく迷はされぬこと、自己の行ひをつつしむ、他人につけいらぬこと、規定をよく守ることなど、防諜上の心得がいやく／＼ながらでなく、日本のためといふ積極的な氣持で守られなければならぬ。

日本をくつがへさうとし、破壊させようとたくらんでゐるスパイの目に見えない攻撃をふせぐ第一線として、最も大切なのは、日本を守らうといふ國民の自覺である。つぎにスパイはこのやうにして防ぎませうと、いろ／＼指導してゐる警察官や憲兵などの役所の指導や取締に協力し、さらに日本を危くするやうなスパイ行爲をした者は嚴重に處罰することが必要である。

今回實施された國防保安法は、三つの役目をもつてゐる。第一は御前會議や閣議などで、ある國と條約締結をしよう等ときめた重要な國家の事がらを外國などに知れないやう守ること。つぎに國民を不安に導くやうな外國の宣傳謀略や、經濟界をみだし、日本國內をみださうとすることを防ぐこと。つぎに外國の手がのびて故

火したり水道に毒をいれたりして、實力で國內をみだすことを防ぐ、かういつた廣い役目をもつ法律なので、國家が秘密にしてゐることをしやべつたから罰するなどといふやうな消極的なものではなく、私ども日本を守らうといふ積極的な法律である。この法律は國內の人はもちろん、外國人も守らなければならぬ。國家の重要なことがらが外にもれるのを防ぐため、仕事の上から國家の秘密を知つてゐる人やまたもつてゐる人が、これを外國や外國人にもらしたり、または公にしたり、自分の友人にももらしたりしても罰せられる。また、あやまつて落したりして外にもれたときにも罰せられる。であるから、國家の大切な仕事をしてゐる人は、これらの關係書類の入つた持物などは十分注意すべきて、家庭の者でも、友人でも、むやみに仕事の内容をきいてはいけない。

それが國家の秘密かは各省で示すこともあらうが、日本人といふ考へから、これはと思ふことは總體にもらしてはならない。國家の秘密はもちろん外國にしられて

は國防上不利益なことがらを、外國に知らせる目的でさぐつたり集めたりした者は勿論罰せられる。日常外國人に接する者は十分注意すべきてある。また外國に利益をあたへる目的で人民に不安をあたへるやうなデマをとばした者も、もちろん罰せられる。

國防保安法のほかに、スベイを防ぐ國防の法規としては軍機保護法、軍用資源秘密保護法、要塞地帯法、軍港要務規則等があり、これらは陸海軍の軍事上の秘密を保護するためにつくられたもので、法律の内容は國防保安法と類似してゐる。軍事上の秘密とは、この間出征した部隊は何千名とか、行先地はどこか、あるひは大都市をまもるために、どこどこに陸軍の飛行場があり、某所に新しく飛行場をつくつたとか、どこどここの部隊は今日何本の軍用列車で出征したなどといふやうなことで、これらは絕對に外部にもらしてはならない。いつどんな機會から外國にもれ、或はスベイの材料として利用され、知らずくのうち、どんな國家の不利益を招

くか測り知ることが出来ないからである。

なほ國防上大切な建物や設備を敵の目にありありと暴露するものに寫眞がある。最近カメラをもつ人が多くなつたので戸外の撮影には細心の注意をしなければならぬ。時局が緊迫してきて、軍事上重要な施設や爆撃の目標になるやうな建物などの繪葉書は大分少くなつたので、スパイは重要工場の事業案内や型録により工場の全景圖を集めてゐるし、又我國で發行されてゐる地理書や古本をたくさん買集めて、この中から近頃は、とても手に入らぬ國防上大切な施設の寫眞を切り抜いて整理し、一たん戦争が起つた時には爆撃、破壊、放火をする目標にしうとしてゐる。カメラを持つてゐる人が、うっかりとつた寫眞が轉々として外國のスパイの手に入らぬと誰か保證し得やう、國防の安全を守る爲に、寫眞をとることを禁止してゐる法規はいろいろあるが、防諜は法規の禁止を守つただけでは不十分で、國民として防諜上害になる寫眞は一切とるなといふ積極的な氣持にならなければならぬ。どんな

寫眞をとつてならないか、要塞地帯はもちろんであるが、二、三の例をあげて見よう。敵が空襲をする時、その寫眞を参考に自分の飛行機的位置が現在どこか、といふことがはつきりわかるやうな都市、燈臺、岬、島、山、灣、鐵道などは空中高處からとつてはならない。特徴ある建物で、建物そのものは大して重要なものではないが、その建物の近くに重要な鐵道や施設があつて、重要施設を爆撃するのによい手引となるおそれのあるものはとつてはいけない。

たとへば、ある特殊なビルディングの寫眞を見れば、形から重要な驛や通信機關が近くにあることが想像できるやうな寫眞はとつてはならない。重要な港も空中はもちろんで、地上や海上からとつてもいけない。どの港はいけないかは憲兵隊や警察署にきけばわかる。軍の建物や設備、重要な停車場や操車場のやうな鐵道のいろいろな設備、發電所、變電所、放送局、水道、重要な工場、倉庫、橋梁、飛行場など國防上大切と思はれるものは、空中はもちろんで地上からも撮影してはならない。よく

この建物は誰でも知つてゐるし、外國にも知れてゐるのでとつてもいい、ぢやないかといはれるが、軍機保護法や軍用資源秘密保護法は、たゞ現在のある特別な建物一つを保護する爲につくられたものではなく、將來日本國內につくられる澤山の國防上大切な設備を守る爲に定められたものであることを理解して、法規を守るとはもちろん、法律以外にも國防上大切な所は撮影しないようにすべきである。

なほ伊豆七島や、東京、横濱、川崎、川口、市川、附近は高さ二十米以上の所から撮影してはならない。外國の寫眞撮影の取締は非常に嚴重で、英國やドイツでは外國との繪葉書による通信を制限し、または禁止してをり、佛國では出版物にのる寫眞にはすべて檢閲番號がつけられてあり、佛印では繪葉書の發賣を禁止してゐるほどである。

國防上大切な建物や設備を撮影してはならない事は先に配したが、撮影を禁止されてゐる施設は、もちろん防諜上害のあるやうな場所の寫眞の複寫も許可なしにし
てはいけない。複寫されたものが友人の間を轉々として、いつ敵國のスパイの手に入るかわからない。

よく私共が、この複寫はいつ許可をもらつたのですかと聞くと、五年前に許可されたから、よいてせうと答へる人がゐるが、五年前と今では世界の情勢はガラリとかはつてゐるのである。複寫複製であつても、その度毎に檢閲、許可が必要である防諜法規の制定前又は改正前の寫眞はもちろん、新しい防諜の考へからみて、これは危険だと思ふ寫眞や繪葉書は早く整理するなり、焼捨てることである。又防諜上有害と思はれる寫眞ののつてゐる出版物をみつけたら、早速警察や憲兵隊に知らせて適當の處理をすることである。

わが海の荒鷲が援將ルートを遮断するため〇〇鐵道の鐵橋を爆撃するに必要な寫眞を手に入れるのに非常に苦心をした。地圖だけでは鐵橋の構造や橋脚のコンクリートの高さはどのくらいかわからず、何キロの爆弾が適當であるかわからないから

であつたところが支那では鐵道橋の寫眞は一切禁止なので、どうしても手に入らず苦心した結果、その鐵道を建設したフランスの技師の書いた本のなかに、やつと貴重な鐵橋の寫眞を發見したといふ話があつた。秘藏の寫眞を展覽會や出版物で公開する時や、寫眞を人と交換するときなどは十分注意の上にも注意することが必要である。

熱心な學校の先生や研究家は國內の産業の發達を示すためアルミニウムやマグネシウム、自動車の産額はいくらかと研究することもあるが、これは國防上必要な物資軍用資源秘密保護法により昭和十三年一月以來の生産額などは秘密に付されてゐるから特に注意を要する。又横濱、神戸、室蘭、大連その他の重要な港から輸入される國防上重要な物資の昭和十三年一月以後の輸入額、及びこの數字をのせてゐる圖書も秘密に指定されてゐる。又東海道線、長崎線その他重要な鐵道の昭和十三年一月以後の輸送能力など、及びこれを示す統計や圖書も秘密になつてゐる。この

他いろいろ日本の國防上大切なことが外國のスパイに知れないやうに秘密になつてゐるから、日常の話などで得意になつて、今度出來た陸軍の編纂機は速力がどの位で、榴彈がどの位つめるなど、いふやうなことを話してはならないことは勿論である。

外國の防諜に對する取締は日本以上に嚴重であるわれわれは日本人だ。祖國日本を守るんだといふ氣持で言葉をつゝしむこと、そして外國人をむやみに信用しないことはもちろん、官吏や軍人の家庭をはじめ、各家庭でも主人の使つた重要書類や地圖、寫眞、設計圖、古手帳、アルバムなどを處分する時、屑屋などに軽々しく賣らずに焼くなり、もとの役所に返すなり、または憲兵隊や警察署に持つて行つて處置をするやうに特に注意していただき度い。

三、新婦人團體と下部組織

久しい間の問題であつた婦人團體の統合は六月十日の閣議で金光厚相から「婦人團體整備確立のため關係婦人團體を統合して一元的に統一せられた新婦人團體を結成する」旨の報告があり、同時に世流をなす三大婦人團體——愛國婦人會、大日本國防婦人會、大日本聯合婦人會は、從來の行きかゝりを一切すて、新團體に統合するといふ共同聲明を發表し、こゝにさしもの難問題も全く解決して輝やかしい新發足に乗り出したわけである。

新團體の性格その他に就いて決定されたことは、已に新聞紙上に發表されてゐるやうに「日本傳統の婦道を修鍊し、修身齊家奉公の實を擧ぐるを目的とする爲、婦徳の修鍊、家庭生活、非常準備の確立、子女の教育、家族の保健、その他家庭生活の整備、家庭教育の振興、國防訓練、軍人援護、隣保相扶等の事業を行ふ。この團體を運営する經費は會費、政府の補助金等によるものとし、寄附金募集は行はしめない。その團體は允許を仰ぎ皇族を總裁に奉戴し年齢廿才以下の未婚者を除いた日

本婦人を會員として組織し、東京に中央本部、各外地、朝鮮、臺灣、樺太、南洋群島に本部を、道、府縣に地方本部、都市に支部、市町村に分會を置き活動の單位を分會とし、中央地方本支部がそれ等分會の統制指導に當るとする。従つて本支部においては施設を伴ふ事業は行はない。分會以下において、その事業は奉仕の趣旨に依つて經營の範圍において行はしめる。この團體の監督は内務、陸軍、海軍、文部、拓務、厚生、六省の共管とし、地方においては地方長官、外地に在りては總督又は長官がこれに當る。但し國防訓練に關しては陸海軍の地方長官廳がこれの指導に在する」といふのである。

この新婦人團體に就いては政府としても理想的な婦人の新體制を整へようとして考へたこととしてその行くべき道としては、現在および將來に對して見透し得る内外の情勢に國民の半數を占める婦人がこれに對應して時局を切り抜けてゆけるだけの鍊成を積み、強い婦人團體をつくり度いといふのであつて、この根本的な氣持に就い

ては各國體とも異存のないところだと思ふのである。たゞこれをどういふやうな組織にして運用して行くかといふ實際的な方法に就いていろいろと問題があると思ふが、要するに、その中味に就いては未だ何を決定してゐない。何故に、ワクだけで中味に就いてこのやうに大雑把であるかといふと、政府は中味を婦人の自發的な創造力に依つて立派なものにつくり上げられる事を要望してゐるがためである。そのため二十五日には準備委員會が開かれ、こゝでさうしたいろくなことが決定された。であるから決して一部の人々の心配されるやうな官製團體ではなく、婦人が心から立ち上つて働けるやうに考へられてゐるわけである。

今度統合される三團體にはそれ／＼特色もあり、愛婦のやうに古い傳統を持つものは、國家の保護なく婦人の力だけに依つてある程度大きくなつて來てゐるのであるから、さうした傳統とか特色とかいふものも、出來得る限り生かして行きたいと思ふ。

然し何と云つても新團體を生かすのは、ここに働く婦人の問題だと思ふ。本當に全女性にとつて魅力のある魂のこもつたものでなければならぬし、それには全女性の熱意と豊富な識見をもつた男性が共に力を加して、婦人が希望を持つて働けるものにならなくてはならないと思ふ。

今度の統合で心配してゐることは何事に依らずせつかちて、今日改組されると、その日から新しいものにならないと承知しないといふ氣持である。これは大變危険なことだと思ふ。婦人に國民組織としての訓練を與へ、新しく出發するのであるから、僅かの間にそんなに立派に出來るものではないと思ふのである。私は二年間だまつて見てゐてもらひたいといふ事を世間の人に云ひ度いと思ふ。二年経つて悪ければ、どんな批難も受けようが、然し出來たばかりの團體を指してあまりにあれこれと批評をすると萎縮してしまふか、さもなければ、場當りのことをやるやうになつてしまひはせぬかと思ふのである。この場當りのこと程恐しいことはない。

今までのいろいろなことに場當りのなことが失敗したのは、さうしたことを行つた當事者にも罪ありであるが、一方世間があまりに功を急ぎ過ぎるからである。今後の新婦人團體に對してもさうしたことのないやう、もつとじつくりした氣持で進んで行き度いと思ふのである。

ともかく、婦人團體が統合されたといふことは婦人界にとりて、革命同様の新しいことであり、これが立派に生長するか否かは、これに同情をもつて盛り立て、行かうとする全婦人の熱意をおいて、他に何もものないと思ふのである。

いよいよ危局は迫つた。全日本婦人上團結せよ。戦線の勇士のみが戦ふ戰士ではない。統前統後一團となつて、あらゆる總力を發揮して、世界の新秩序建設と、東亞共榮圏の確立に邁進しなければならぬ。

四、實戦に臨んでの防空心得

國際情勢の逼迫は今更云ふまでもないが、日本は今や全くA B C D線に包圍されこれと戦つてゐる状態である。いよいよ國際的に重大危局に直面して來たので、何時處から擲撃を受けるかも知れないのである。

今の發達した航空機の威力をもつてすれば、どこからでも日本の中樞部を襲へるといふ状況になつてゐるわけであつて、例へば太平洋からといふことも考へられるし、或はアメリカ、イギリス、蘭印など南洋の島々から更に大軍港シンガポールを根據地にして、南方から北に向つて空襲するといふことも考へられる。又支那に基地を求めて、人や機械を送り着々重慶政府を助けつゝ、時によつては日本を爆撃するといふやうな、或はアメリカが直接フィリッピン、それからアラスカのノーム、ダツチハーバーなど……。フィリッピンからだとする、臺灣、九州は完全に攻撃圈内に入るのである。

かく考へると、我國の防空がいかに大切なことかといふことが分る。

更にこれを距離の點から云ふと、西の方の沿海州からは千百キロ乃至千四百キロ、アリエーシャン群島のダツチハーバーからは四千七百キロ、ハワイから六千三百キロ、グワムから二千五百キロ、フィリッピンから三千三百キロ、シンガポールからは五千三百キロといふわけである。いま假りに時速四百キロの飛行機で飛んだとすると、沿海州なら三時間で来るが、この頃は五百キロも飛ぶような重轟撃機なども出来てゐる。

もし航空母艦が日本の近くまで来て、そこから航空機が飛び出すといふようなことがあれば、極めて距離も短縮されるし、敵の攻撃目標として、わが國の全土が危険にさられることになる。それに航空母艦は艦隊と行動を一しよにするものであるが、時にまた艦隊の擁護なくしてやつてくる場合もある。又例の成層圏飛行機なども非常に發達してゐるから、油断は出来ない。一萬米内外の高い所を飛んで來られたら肉眼では見えないし、發見に困難することもある。

ソヴエートでは、昨年北氷洋の南側からシベリヤの北を通つてカムチャツカのコムンドルスキーといふ島に基地を作つたとかいふ話もあるが、アメリカがさういふ基地を利用するといふことも考へられるし、また母艦といふものを考へる場合は、沿海州を使ひ得ないこともない。一番近いのは何と云つても沿海州であるから、今のところ三時間以内で充分目的地に達し得られる。これを人の歩く時間に直すと約三里に相當するから、三里以内に敵の大軍が控へてゐると考へなければならぬのである。

飛行機には大體どの位爆弾がつめるかと云ふに、ハワイから東京へ來るとして、十トン内外積めるものがいちばん多いやうである。假に八トンのホスゲン(毒ガス)は半時間も経たないうちに數百萬の人を殺すことが出来る。その毒ガスをアメリカの或る會社では一日に八十トンも造り得る。勿論宣傳もあるだらうが、アメリカが何を考へ、何處に目標をおいてゐるかといふことが想像出来るのである。

日本の建築は建築資材の關係からして、敵が空襲する際には焼夷弾が一番効果があるかと考へるであらう。そこで焼夷弾なり、毒ガスなりの空襲を受けた場合に處すべき心得を十二分にもよく呑み込んでおかねばならぬ。

毒ガスを大別すると糜爛性、中毒性、クシヤミ性、窒息性、催涙性の五つで、それには持久性ガスと一時性ガスがある。どれでも防毒マスクさへつけておれば大體防げるのである。又防空演習などでは紫や黄ろい煙を出すようにしてあるが、あれは分り良くしたので、本當のガスは殆ど目に見えないのが普通である。毒ガスを使ふのはなかなか面倒で、空氣の動かぬ朝とか夕方とか、風の方向にも最も注意をする。今回の歐洲大戦で親子爆弾と云つてロンドンでよく使つてゐるのは、初め普通の爆弾で建物をこわしてそれから焼夷弾を打ち込むように出来てゐる。日本ではこれが反對になるかも知れない。最初焼夷弾で焼きはらひ、逃げ出して廣場にでも集つた所を今度は爆弾でやる、といふようなこともあり得ると考へなければならぬ。

今もし敵の飛行機が編隊でやつて来て、東京の上空に焼夷弾をばらまいたとする。少くとも、約七千位が最大限度ではないかと思ふ。かの大震災の時には約九十パーセントの火事は各人が消してゐるから、その割でゆくと、七千が約七百になる。假令七千としても七百萬の人口に對しては千人に一つのわけであるから、現在のやうに隣組や警防團が協力してやれば、その位の火は容易に消されるわけであるから、要はその際にとるべき手段と方法を平素から練習してさへおけば、無暗に恐がることはないのである。

次に空襲に對する用意は、何より一番土臺となるのは「防空の精神」である。敵の爆弾がおちて來たら、それに飛びついて行つて消しとめる。焼夷弾でも何ても負けるものか、どこまでも戦つてゆくといふ不屈の精神が何より大切である。婦人も自ら防空に對する認識を十分持つと同時に、子供達にもしつかり教へ込んでおくのが何より大事なことである。よく隣組の話などは、避難と防毒を主にやつてゐる

やうだが、それだけでは防空にはならない。穴の中へ避難するのもし、が、入つたきりて火事になるまで知らずにゐるといふのは思ひちがひで、防空壕は只爆弾を落された場合に、破片をさけ、爆風をさける爲に使用するものと考へて貰ひ度い。敵の焼夷弾なり爆弾が落ちるといふ時、皆が掩護物のない所に止つてゐるといふことは、實際問題としてはむづかしいことであつて、大部分は何處かに隠れるが、その中の幾人かは見張りをする。さあ焼夷弾が落ちたと云ふ見張の掛聲と共に一齊に飛出すのであるが、その時の氣持、これは實にむづかしいと思ふ。訓練の不十分な一般國民、特に婦人を消火に飛出させるのは、精神的な訓練も勿論大切だが、しつかりした指揮者が必要で、町内會などの現在のやうな實狀では有機的活動が出来て居らぬから、組織をもつと根本的に變へて、今までの訓練法をしつかりやり直さねばならぬと思ふ。防空壕もわざ／＼丁寧なものを造るよりは、資材の關係もあるから隣組で一寸隠れる程度のものを多數造るのがよいと思ふ。

東京のやうな所で何が怖いかといふと火事の際に人が煙の中に巻き込まれること、廣い所でも皆が物を持ち過ぎたり、背中へたくさん背負つたりしてゐたら、消防自動車はもとより、高射機銃も傳令さへも通れなくなる。普通の火事と空襲の時とは大きな違があつて、同時發生だから、自分の區では火事でなくとも、東京中のどこで起つてゐるか、どこで食ひとめられてゐるか分らないから、荷物を持つて居たら最後、みんな行詰つて終つて、動きがとれなくなるから、絶対に物は持出さぬようにすることである。それには穴倉を堀つておいて大事なものをもその中に入れて土をかぶせるとよい。大地の土の一尺下ではあの大震災の時でも焼けてゐない。二寸丈でも火を耐へる。だから資材の得られぬ今日應急的にやるべきものは何よりも穴倉で種々の關係で大きく深く堀れば、小さくて浅いのを澤山堀ればよいわけである。さうした準備をして置いて、各人が火に向つて飛びついて行くやうになれば空襲と雖も少しも怖いことはない。殊に焼夷弾は三十秒以内に始末をすれば問

題はない。萬一焼夷弾で家が焼出した場合は周りの家を打ち壊し、小さな區域だけを燃やして他を助けるよりほかない。

とにかく空襲といふものは、國の今までの生活要素を全部根本的に變へるものだと思います。建築から教育から生活から、一つの家庭に於ても、主婦の物の仕末のしかたまで變つて來なければならぬ。穴倉に入れるもの、背負つて避難するもの、防火に使用するものと順序を考へ戰時的に大整理しなければならぬことが肝要である。

高射砲の破片はバラ／＼に落ちて來て、怪我をする危険もあるが、屋内とか、軒下、物蔭等にゐれば危険が少ない。こんどの歐洲の大戦でも、ある地方では子供に銃兜がないから、座布団やザルなどを覆せるなどの話もあるが、洗面器でも鍋でも何んでもよろしいから、これ等を利用して怪我をせぬように心懸けねばならぬ。持久性のガスでもその位置がわかれば風上を通つて避けておればよいのである。

これらを指導するにあつては、隣組の組長が餘程しつかりしてゐて、何時でも

隣組應變の處置を構ずると共に、隣組員が眞に手を取り合つて助け合ふようにしなければならぬ。さうすることによつて自然に町會も、區も圓滿に和かに纏り、どんな悲惨事でも、未然に、或ひは極めて犠牲を少くして済むことができる。その意味で隣組はふだんから常會に於いて心おきなく話し合つて、心の垣根を取り去らなければならぬ。必要以外の堅固な塙を取り除いて、本當にしつかりした隣組でもつて防空の完璧を期せなければならぬ。

町會や隣組ことに無數に焼夷弾の洗禮を受けるかも知れないが、その時は徒らに他人の援助や手傳ひを待つことなく、速急に行動して自分の組は自分等の手で守るといふ強い信念を持つことが大切である。

第七章 戦時下に於ける家庭生活

一、家庭生活の合理化

日本婦人の偉大さ

私は先づ女子教育と云ふことを考へる前に、日本の婦人の偉大なることに就いて一言したいと思ふ。

それは幾多の實例があるけれども、日本が重大な浮沈の瀬戸際に立つたあの日露戦争において、我が皇軍がよく大勝を博した所以のものともより、上陸下の御後威の然らしむるところであつて、これは云ふまでもない。また我が陸海軍の勇戦奮闘による成果であることも申すまでもない。が、しかしその頃の戦後の婦人の心からなるものがあつたのである。

あの滿洲の戦野において、強大な露軍を向ふに廻し力戦奮闘した我が將兵に對し、戦後から婦人達が眞心こめた慰問袋や慰問文が續々送られたのであるが、さういふことは「家郷のことは心配するな、家族の事は氣にかけるな、國家の爲に十分働いて下さい」といふやうに、家を守る主婦、村を守る婦人のさうした心盡しが、戦場に活躍する勇士をどんなに勵ましたことであらう。

戦争が済んだあとで、戦に負けた露軍が、口を揃へて「日本軍の勝利の原因は戦後婦人の力強い優しい不断の後援の賜である」と云つて激賞したといふことである。

重大な女子青年の教育

このやうな事例は何も日露戦争の時だけに限らない。今次の事變においても、幾多の貴い事例のあつた事は數ふるに過ぎない。

實際、事變下に於ける力、婦人の働といふものが、非常に大きな役割を果すものだといふことを考へないわけにはいかない。

凡を國家社會の向上發展を冀ふには、男女各々その分に應じて、自分の職務を通じて、特色を發揮して頂かねばならない。

ところが従來の我國の教育といふことをみるに、その教育機關において、また教育を受けてゐる人數において、女子教育が男子教育よりもいくらか振はないやうに思はれるのであつて、恐らく誰でもがそのやうに考へてゐるのではないかと思ふ。

しかし、かういふことでは、男女が相助けて、共に國家の伸張に寄與しなければならぬことを考へると、まことに遺憾に堪へない。なんとしても、ますます女子の教育を振起せしめなければならぬと痛感される。

それに就いては、高等女學校、實業女學校、女子専門學校等いろ／＼な學校があるけれども所謂、勤勞女子青年の教育に、國家が力を入れるといふことは極めて大事なことであると思ふ。

しかるに勤勞女子青年の教育機關としては、女子青年學校を第一に擧ぐべきであ

と思ふのであるが、それも今申たやうに、男子に比べるとその生徒数も半分に満たず、又学校の数も少いのであるから、女子青年学校の振興といふことは、非常に大切な問題であるのであつて即ち、政府、府縣、市町村が共に力を協せて、女子青年学校の施設、それから指導、又私立青年学校の設置、更に女子専任教員の増加といふことに、一層力を致していかねばならないと思つてゐるわけである。

さて、この時局下に於て、女子青年教育上、力をつくすべき點はいろいろ多いのであるが次の五點をこの際特に強調したいと思ふ。

その第一は、女子に對して感謝報恩の精神を涵養すること

これである。女子青年の諸子は、今日體が丈夫でそれぞれ仕事に勵み、勉強も楽しい生活を送つてをられるのであるが、それは諸子の御先祖や御両親の恩恵であるといふことを常に忘れることがあつてはならない。もとより我々國民は、

上皇室の御恩恵に浴してゐることはいふまでもないことであるが、先祖、両親の御

恩恵まことに高く、深く、且つ大きいといふことを、常に感じてをらなければならぬ。

またそれと共に、諸子を教へ導いて下さつたところの學校の先生、指導者方の御恩といふものは、常に念頭に置いていかなければならない。

世の中には相當に學問をした人で、理窟に長じた人であり乍ら、感謝、報恩の精神を忘れてゐる人が随分多いのであるが、さういふ人は、人間として最も大切な心掛の煥發してをるものであつて、尊敬するに足る人とはいへない。

その第二は、堅忍持久について

であります。堅忍持久といふことはそれを平たく言ふならば、辛抱強いこと、忍耐心が強いといふことである。

またこの言葉は、今日の時局に直面して、國家が國民に呼びかけてゐるスローガンであります。即ちそれはこの時局下國家の上からいつても、また個人々々の生活

の上からいつても、極めて大切なことであるが、しかし乍ら、それは口には言ひ易く、行ふに極めて難しいのであつて、殊に日本人は堅忍持久の精神が少いといふことが國民性の短所であるときへ言はれて居る。東亞に於ける建設を目ざして、興亞の目的理想を達成すべく、一億國民が努力邁進してゐるのであるが、しかし乍ら、戦争の所期の目的を完遂するには、今後なほ數年も十數年もかゝると覺悟しなければならぬ。しかるに國民の中の一部では或は物價が高いとか物が無いとか不平を言つてゐる者も少くないのをみることは、まことに遺憾であつて、今後なほ我々は幾多の苦難に打ち克ち、この難局を打開するの覺悟がなければならぬと思ふ。このことは諸子の現在及び將來において世の中を渡つて行く上においても非常に大切な心掛になるのである。

第三には勤勞愛好といふこと

今日の日本は、生産擴充、増殖といふことが最も大きな國策の一つとなつており

それが出来ることによつて聖戰の目的を完成させることが出来るのであるから、諸子はこのために、自分の家の仕事を援けらるといふだけの考へてなくして、國家の一員として、戦後における重要な仕事を擔當してゐることを自覺して、各々の業務に、進んで、好んで、喜んで全力を捧げ、自分の身も心も仕事に打ち込んで楽しんで一層精勵して貰ひたいと思ふのである。

第四には、體位の向上といふこと

女子は將來家庭の中心となつて、子女の育成と家政の運用に當るといふ大きな職務を持つて居り、他日その大きな職務を完全に果たすためには、今のうちに體位を向上するといふことは極めて大切である。

女子の體位を向上せしめるといふことは女子の本分に鑑みるに、日本國民全體の體位を向上せしめるといふことになる。

近時、日本の青年の體位が著しく低下したといふことは痛く憂慮せられておるが

これは、最近徴兵検査の結果に現はれてゐることであつて、年々低下を辿るといふ
歎はしい現狀である。

旺盛なる精神力と強健なる身體とは、國家興隆の基礎をなすものであるから、特
に留意しなければならぬと思ふ。

第五には、實業債約について

御承知のやうに、政府は國民に對して百三十億貯蓄といふことを強調してゐるが
國民に質素、節約の念がなければ到底實行し得ないことである。服装の上において
華美を好み、物の使用の上において贅澤をするといふことは、全く恥づべきことと
ある。殊に今日の日本は興亞の大理想を完遂するといふ大事業に直面してゐるので
あるから、國民全體が益々心を引締め、日常の衣食住の一切において不便不利を忍
び、禁止品は無論これを廢止し、これまで一期間使用したのもでも二年三年と永く
使ふやうに心掛けたいものである。要するに一家の臺所の改善は、主婦の力に俟た

なければならぬのである。

二、都市婦人の生活改善

いよく國戰體制の氣分が充溢して來るに従つて、しきりにドイツ婦人や、ソ聯
婦人が（婦人といふよりも女性の一斑が）どんなにか有能に男子の仕事の片代りを
してゐるかといふようなことが、日々の新聞や雑誌の記事を賑はしてゐる。

誰しも日本の女性が勇氣や、報國心に於てこれら外國婦人に劣つてゐるとは考へ
ず、また考へても見たくない。むしろこれ等の點では勝つてゐるかときへ思はれる
にもかゝらず、體力や技術、或は學識の點では、果たしてどの程度に、よく男子
の仕事に代り得る力があるかと云ふことを憂へる。

明治三十三年、北清事變の當時、北京に籠城した各國公使館や居留民たちの女の
中で、日本の女は體力が不足し、組織的な活動と訓練を缺いてゐて、歐米婦人に到

底及ばなかつたのである。日本の女も今後は、今までは違つて、立派な體格と、組織的に活動する訓練實習をしておかなければならぬとは、屢々聞かされたことであつた。

明治三十三年といへば、今から四十年前、日本では漸く日本女子大學と津田英學塾とが民間の専門學校として、漸く創立されたばかりであつて、女學校は東京に府立第二が出来たばかりであつた。私立女學校も數へるほどしかなかく、従つて小學四年制の義務教育が女子教育の大多數であつた。

府立第二女學校が制服として袴を用ひることをきめたのが甚しく世間の注目を引いたくらいで、女學生がお稚兒や桃割れ、唐人藍などの日本齒が多かつたことを考へても、重い帯、ヒラ／＼する裾、長い袖が活潑な運動を妨げていたことは勿論であらう。

東京にまた水道もガスも電燈もなく、電車もなかつた當時のことであるから、主婦の外出は珍らしく、職業婦人といふ言葉さへなく、婦人の職業といへば教師か、産婆それも殆んど例外にすぎない状態であつた。この四十年の間に於ける日本女性の變り方といつたら、實に夥しいものがある。

女子が斷髪となり、裝の多いスカート、窺屈な仕立を捨て、今日のように備き、服裝になつたのもこの頃のことであつた。それから廿五年、女子は體位も技能も遙かに向上してゐる。日本では男てさへ専門家以外、自動車を運転し得る者は少いのに、今日歐洲の交戦國では、トラックを運転してゐる女が多いと云ふ。四人に一人の割合で自動車をもち女子工場員が、自家用車を自ら運転して通勤するアメリカに至つては、恐らく自動車の運転を知らない女性の方が少いではあるまいか。それ等の技能や組織的活動の訓練については、日本の女性はまた前大戰當時の交戦國の女性程度にもなつてゐないのではなからうか。十人や十五人の娘が警視廳に自動車運転手の試験をうけに來たといつて、新聞に寫眞が出るやうでは何とも心細い

歐米では飛行機を操縦する女性はこの何百倍もあるだらうといつても日本女性が見込のない無能な生れつきではない。要するに、日本の産業化がをくれてゐた結果なので、事變を機として飛躍的な産業化が必要とされてゐる今日、さういふ方向に教育と習慣とをふりむければいゝのである。若い娘は學びたがつてゐる。働きたがつてゐる。今からでもおそくない。體力と智能の許す限りなるべく廣く、多の種類の技能に對して女子を訓練すべきである。外國の女性の進んだ點ばかりあげて、日本の女性を貶して満足すべき時世ではない。

三、戦時下の家庭衛生

本来婦人は家庭にあつて衣食住を主宰とし、主として消費經濟に當るのが其の天職である。然るに我國婦人には衣に就いて特に人間生活の生育、保健に直接關係のある食に就いて、又因より家の住み方に就いて充分なる科學的知識が與へられて居

るであらうが、科學はつまり二點間の最短距離を探索する事である。

我國婦人は其天職に就いて、果して二點間の最短距離を歩みつゝあつたか。人間の生育、保健は大體「空氣」と「食物」と「太陽の光線」との三つによつて得られる。空氣は最も大切で、絶えず之を肺に吸入して血液を淨化せねばならぬ。一分間之を停止しても生命に關する。その代りうまく出來てゐるもので空氣又は統制や配給によらなくとも自由、自在に貴賤貧富の別なく吸入することが出来る。結果「食欲」といふ本能に引きづられて、只管美味を追求し、おいしい物を食べれば胃液もよく出るし、精神的にも消化吸収が良くなる等、いゝかげんた巷説に錯覺を起す人も出て来る。しかしどんな美味な物を食べても、胃腸の中で蛋白を脂肪にかへることも出来ないし、ビタミンAは胃の中でBにかわりはしない。舌の先の「サワリ」の善惡を以て食物評價の基準とするのが今日の社會通念なのだから折角の七分擔き米を鑿つて澱粉のみの白米に箸を向けたがる。だんく踏み迷つて遂には鶴の卵や

肉のみが營養の神様であるかの迷信に陥る。食物に對する人間の無智を改めなければ其の民族は衰亡の一路を辿るより外ないと思ふ。ドンナ食物をドンナ風に食べるかは醫者に相談されるもよからうし、新聞や雑誌にもいろいろ書いてある。之等を綜合して、常識的に考へれば當らずとも遠からざることになると思ふ。獨斷的な考へて偏食に陥るのは一番禁物だ。消化吸収の良い形體に食物を變化せしむるのが、調理の基本要件であり、人間のからだに必要な要素をなるべく調へるやうに色々な物を雜食するのが必要だ。今一つ最も大事なのは過食を嚴に避けることである。特に我々は、米の御飯を茶碗について無制限に子供も大人も食べる風習になつてゐるから、腹のすいた時は二杯三杯となり三杯四杯となる。御客にても物を惜しがるやうに思はれては我家の一大事と計り、御客を過食せしめることに専念するのが我國家庭の接客方である。故に多數の日本人は胃を痛めたり疲勞さしたりしてゐる。だから腹が空になると胃壁の運動毎に異狀を感ずる。之を饑餓感とまちがへて直ぐ

何か食べる。急もつて教ふ可からざる邪道に陥つて體位が下向する。時にウント食つて胃の内容を廣げて置かなければなど、飛んでもない知つたか振の愚論を云ふ人もあり、ビールの飲みつこをしたりする愚事は今はないが、昔から食物に對する關心も少く、況や其科學的の検討をするなどの習慣はなかつた。が、今や敢然と之を改めなければならぬ時が來たのである。

我國民は今から四五百年前迄は完全に玄米食をして居つたが、元祿の頃から白米になつたさうだ。玄米は澱粉の外に、ビタミン、蛋白、脂肪、カルシウム、並に無機鹽類を適量に含有してをつて、人間の爲には完全食に近い。故に米を主食と見做し、之さへ食べて居れば副食物なくても良いし、有つても夫れは何んでも良い。といふ通念が今尙傳統的に我々の頭に潜在してゐる。玄米食の頃はこの通念は誤てはなかつたが、澱粉以外の、ビタミンや脂肪、蛋白など凡て之等は糖分やクレール氏層に含まれ、完全な白米は殆ど澱粉丈けてあつて、ジャガ芋とあまり大差はな

いの中から元祿此方、白米になりかかつて後も依然として昔年らの米主食主義を採る事はいけないのであるし、安南や泰國の白米をも混食しなければならぬ今日に至つては悉々以て、米飯主食主義に檢討を加へなければならなくなつた。つまり我國民は、白米病、或は「ビタミンB」缺乏症の如きにかかつて、二體位が低下したのではなからうか。脚氣などは勿論であるし、肺病や胸膜炎の多いのも亦之が爲ではないかと思ふ。玄米が完全食に近いものであることは前に述べたが、元龜天正の頃の我國の武士は玄米に梅干のみで、重い甲冑で大刀を振り廻しつゝ、戰場を馳騁した。當時南歐から渡來して居つた天主教教師が、其「日本西教師」に於て「日本武士の剛健に驚いた」と書いて居る。又元祿時代に和蘭の貢使に従つて來た醫者「ヘンペル」氏は、其著「日本紀行」に日本人の體格の強健なるを驚愕せる記事を載せてゐる。

又運動さへすれば身體は丈夫になるものと誤解して居る。多くの人は運動と鍛錬をさへすれば丈夫で體位が向上するものと錯覺して居る。運動や鍛錬は一面に於て體位の消耗である。休日に朝早うから子供を起して遠足に行く例もあるが、子供は毎日學校で過勞と思はれる程度に飛び廻つて居るので、その爲に休日があるのだから、只管休養を計つてやる位の心遣があるべきだと思ふ。近頃はやるハイキングにしても事そのものは大變結構ではあるが、人に依つては、毎日職場で寧ろ過勞に陥りつゝ、働いて居る。サテ待ちに待つたる、たまの休日には體力の恢復を圖りつゝ、次の月曜には衝天の氣力と體力で職場に猛進すべきが本當ではないだらうか。休息と食物で充分に補はなければ體位が必ず衰へてゆく。よく日ノ丸辨當を唱へて、元龜、天正頃の武士を眞似てみるところで、米は凡て其の持つ營養素がはぎ取られた白米になり下つてゐる。コンナ辨當を下げてへト〜になる様な遠足を何時もやつて居たら、大概のものは肺病位にはなり得ると思ふ。有名な運動選手の多くが、遂には體をこわす事なども深く味つて見るべきだと思ふ。

我國の婦人が、今一段と科學的に關心を持ち、その天職に於て、一瞬間の最短距離を歩む様に精進せられることである。

四、科學常識の再教育

科學振興が日本科學の現状にたいして悲觀のあまり出来上つたと思はれるほど、わが國民殊に女性の科學常識は缺如してゐる。思想家生活と科學常識との結びつきをそれも科學的に計畫していたゞきたい。

とかく、味や色合ひには敏感な日本女性、それに偏しやすいのは、美しい傳統ともいへようが、大きくわが國といふ立場から、日本女性を考へるとき、ことに既後家庭を一層固めて行かうとするとき、現状のまゝの科學常識では未恐ろしくさへ感ずる。

むづかしい事はぬきにして、これ又は家庭生活上のつびきならぬ科學常識として

どんな方法からてもよいから、全日本女性にたいしての再教育を早急に計畫し實施してもらいたいものである。

これがあつて初めて子女の教育にも、家庭のほかにも、隣組の御用にも立ち得るのではなからうか。

一般には、科學はある知識を教へることだと思ひ勝ちであるけれども、それは實に雜然とした新知識を感じるに過ぎない。科學する心といふのは、それを活かして考へる心であるから、あらゆるものに同じやうに通ずる。

一回の風呂沸に、どれだけの燃料が入るか、今かりに一石五斗（一二七〇リットル）の風呂水とすれば、眞夏の攝氏二十四度の水道水を四十四度の御風呂にわかすに約二十度温度を昇らせるわけになりますから、石炭を使つたとすれば、發熱量を五大カロリー（石炭が悪くなつてゐますから）として効率を四〇パーセントとして計算してみますと、

二、七キロ、即ち三キロ足らずで沸くはづです。普通のバケツ一ぱいの石炭は七キロぐらゐですから、この程度の御風呂の水ならば半分て沸くはづである。

井戸水の攝氏十四、五度位のもは汲み立てならば、この水道水より約十度多く温度を昇らせなければなりませんから、五割石炭が多く入る測定はすぐわかりませう。十五度の水は朝汲んで時々かき廻すと、眞夏の夕方には、十八度に昇り、翌日までおくと二十一、二度ぐらゐに昇りますから、汲み立てより一―二割ぐらゐ、その方が得なことも計算てわかりませう。かういふやうに物を測定したり計量的に考へることは得なことである。

大だらひに二〇リットル、洗面器に三リットルの水を入れて、これをいろいろの天候の夏の日に試してみますと(攝氏二十一度の水道水を利用したものです)

	一時間後	三時間後
攝氏二十六度のうす湯	二四度	二七度
同 三〇度の普通の湯	一九度	三四度
同 三三度の極めて快晴	三一度	三九度

攝氏三十五度を越えたと行水としても氣持よく、又洗濯にも冷水より石鹼の溶け方も効めもよく濯ぎの効果も増してをる。

なほ日向水は天候にもよるが、三時間ぐらゐて最高に達しそれ以上長くつゞけるをさして効果が上らなく、又夕刻四時過ぎは下つて来る傾向にある。

洗濯には雨水

洗濯用水は井戸水よりも水道水がよく、また水道水よりも雨水がよい。理由は井戸水は一般に硬水が多く、即ちカルシウム、マグネシウム分を含む爲に石鹼のとき方、き、も悪いが、水道水は、その點良好であるが、雨水は天然の蒸溜水で一層石

鹼の溶け方もききもよいわけである。

洗濯の多い季節は、この水の注意も必要なもので、硬度の高い井戸水は石鹼を溶けて見ると、その溶け方の悪い時には、糶や洗滌物を造るからよくわかるが、かういふ水は鹽いっぱいに洗濯ソーダ親指大一、二個も入れ、しばらく放置して用ひるか、又爐や火鉢の灰を滲出した、即ち四斗樽ぐらゐに灰水を立て、用ひるとよろしい。またゼオライト濾水器等もあるから、これ等の利用も一法である。

物の良否が判るお臺所に便利な比重計

寒暖計を臺所に利用する家庭でも、比重計を備へつける家庭は珍らしいが、しかし計算尺が、すでに使用されようといふ時代であるから、そろそろ比重計を備へてみることもある。主婦の科學常識として次に述べてみよう。

金魚の游ぐ酒とか、また最近さいじんは小買ひの醬油やソースさへ、うすいと噂をよくきくが、ある醬油原液一、一六〇の比重のものに水を注いでみたら一〇パーセントの

水を加へる毎に〇・〇一づ、比重を減じ、又ソース一・〇八のものは一〇パーセントの水を注ぐ毎に〇・〇〇五づ、比重を減じてゐます。これは一例であるが、比重から、そのうすさの程度ていどの分るところに興味がある。

牛乳の正常なものは比重一・〇二八から一・〇三四ぐらゐであるが、これも水一〇パーセント加へる毎に約〇・〇〇三ぐらゐづ、減ずる。そこで、この比重と脂肪の量をみることに牛乳の良否判定に利用されてゐる。

生みたての卵の比重は一・〇九ぐらゐであるが、之は日を経るにつれて比重を減じ、平均一日に〇・〇〇二ぐらゐづ、減ずるから比重を測ると大體生み立て後の日數で、その古さがわかるものである。

以上の外工夫したら、いろいろと臺所に利用の道があらう。臺所を科學的に扱ふ興味は、こんなところからも生れるものと思ふのである。

比重といふのは、御承知のやうにその物を水に較べた重さのことである。

第八章 決戦體制下の學徒總動員

一、可憐な學徒の勞働力

學生が非常時局をよそに、獨り特等席に納まつて本を讀んでゐるといふことは許されないことであつて、昭和十三年六月文部次官通牒を以つて雄々しくも進軍を開始した全國の大學、高等專門學校及び中等學校、學生々徒による「集團勤勞作業」は年々共に眞劍味を加へ、最初は延人員七萬人位だつたのが、本年度に於ける動員数は延二千萬人といふ素晴らしい數字を示すに至り、未來の祖國を擔ふ國家の中堅としてまことに力強くも頼もしい勤勞風景を繰展げつゝあることは喜ぶべき現象である。

過級の水害による農作物の被害、道路の破壊については、早速これら學生護勇軍

が時を移さず活動を開始し、忽ちにして着々復舊工事が完成し、國民感激的となつてゐる。北海道における大運河掘鑿作業は學生義勇軍の逞ましい勞働力を極度に發揮した特記すべき大事業の一つであつた。また山林、治水に於ける學徒隊の活動も目覚ましく、舟澤山の報國寮を始め全國二十の山の家による山の部隊は植林、土止め、木炭の焼出し等には異數の巧績を収め、地方人も顔負けの働きぶりを發揮して非常の好成績をおさめた。

殊に戦時下食糧増産の挺身隊としての學生軍の奮闘振りは、實に涙ぐましいものがある。播種に植付けに除草に、一農家に二人または三人と割當てられた學生は全く農家の息子として働き、家人とともに寢泊りしてゐるので、自然お互に情愛も移り期限が來て別れる時には兩眼に一杯の涙を浮べて、去り行く學生の後姿を見送つてゐる老夫婦もあつたといふ。

本年四月の新學年度から小學校を國民學校と改め、體操科に衛生教育の一科を取

けて、國民の常識としての衛生思想の普及徹底を圖ることとなつたが、猶の手も借りたほど忙がしい農繁期の農村では、食糧増産の唯一の尖兵として、可憐な初等科の兒童が黙々として土に働いてゐる。これら兒童の勞働時間は意外に多く、上級學年になるほどこれが時間も長く、女兒童も炊事、子守などして、この農繁期の家事手傳ひをしてゐる。

しかしこれら兒童の勞働も農繁期の勞働力を補ふために動員されてゐるが、極めて僅かに家事の手傳ひ程度で、本當の勞力不足を解消するまでには至つてゐない。それにはどうしても指導と組織が必要であつて、指導の方面では子供向きの勞働を選ぶとか、共同作業の研究をする必要があり、組織の方面では學童作業班を作つて勤勞作業を整へることは最も緊要なことと思ふ。それには勿論身體の強弱によつて勞働時間を制限するなり、學校長、先生、農會等その他農村の人々が協力一致してこの少年勞働を育むならば、現下の勞働力の不足もある程度は緩和されること、信

二、青少年と馬事訓練

青少年の馬事訓練といふことは極めて大切な事柄であるが、今日まで餘り問題視されずして来た。ところが今次の支那事變に於て青少年の馬事訓練が最も必要なることを痛感せしめられたのであつた。

今次事變に於て召集せられたもの、中には、多數の未教育補充兵が含まれ、これら未教育補充兵は應召すると直ちに徵發馬の口を取つて、第一線に活躍したのである。ところが馬に關する知識の不十分なり或は皆無から、非常な苦難に遭遇し、または不慮の傷害を受けたり、馬は戦線に斃れたりして、第一線の軍隊は馬の不足を來たし、軍の作戦に重大なる影響を及ぼしたる例も少なくないのである。

一、二の例を擧げて見ると、徵發馬は多年軍隊に於て訓練してある馬と異つて、集

團訓練も出来て居らず、部隊行動その他に於て仲々思ふようには働けざるにもかゝはらず、馬に不馴な兵から見ると、まるで臆服な牛の如き感がするのである。元來馬は非常に惻巧な動物であつて、飼主の氣持をよく知つてゐる。それ故に主人の方で馬が恐ろしいと思ふときは、馬は主人が恐ろしいのである。主人の方でも馬を害してやる意思のあるときは、馬も主人を警戒して思ふやうに動かない。

そこで馬が思ふやうに動かなければ、飼料を與へないで、虐待して報復手段を講ずる。また馬が使用者になつて、あの長い顔をすりよせて愛撫の一つも要求してゐるのに、これを咬みつくが如くに誤解したり、何にか食べ物を要求して前脚を擧げて土をたゞけば、暴れるが如く思つたり、蠅や蚊を追ひ拂ふために後の脚を上げれば、蹴るのではないだらうかと惡解して、これを打つたり、蹴つたり、或は手入れを放任して省みなかつたり、食べ物を與へないで虐待したりして、遂には折角の活きた兵器とされるところの軍馬を、戦の役に立てることが出来なくなつた例も

甚だ多いように思はるゝのである。

こうした缺陷はたゞに國家のためにも甚だ思はしくないことであつて、また馬の取扱ひの不馴のために起る咬傷、蹴傷、裂傷等の被害も相當の數に上つてゐることに注意しなければならぬ。將來國家を擔ふ青少年たちに確固たる馬事知識を與へ、他日國家のため召されても不自由なく奉公の出来るよう、充分の馬事訓練を與へなければならぬ。

総合的科學教育

松岡外相が訪歐の歸途「ソ聯の子供て一番感心したのは、科學教育の徹底してゐることだ」と賞讃したことはまだ記憶に新たなことであるが、この賞讃したことは、をひつくりかへすと、それは諸外國に比べわが國の科學教育が如何に未熟であるかを嘆く外相の嘆息にしか聞えない。科學する心の神髓は、てはどういふ所に見出すべきであらうか。それに對する一つの示唆として科學教育では最も進んでゐるとい

はれる自由學園（府下北多摩郡久留米村）を訪れ、同學園の授業振を見る。

その思ひきつた教育法は、確かに暗中摸索してゐる現在の科學教育にある貴重な暗示をなげかけてゐる。

この學園の何よりの特色は一般學校が最も重視してゐる教科書を副にしてまづ最初に實際の工作から入り、それを通じて具體的に物を學ぶことを主眼にしてゐる點である。一年、二年（一般中等學校の一、二年と同程度）の工作時間には殆ど教科書を用ひない。試みにその教程をみると、

一年は、椅子の製作、自轉車の分解組立に終始し、二年は、望遠鏡、カメラ、測距儀、秤を學び、三年では電信電話の實際、四年ではさらに模型および實物グラフィダーを製作、五年から初めて純粹理論に移つてゆく、といふ風である。

生徒達は、これら工作教程からいかにして科學を身につけてゆくのであらうか？まづ、一年生たちの古自轉車組立から見てゆかう。

自轉車はもつとも手近にある機械であり、またもつとも高度に發達したといはれる機械の一つである。その分解組立を経として多くのことを學び取らうといふのがこの一年生たちの意圖なのである。

扱ふのは古自轉車であるから分解にも骨が折れる。錆びついてゐるところを如何にして損傷なして分解するか、また多くの部分品を他日の組立のために如何に整理すべきか、いろいろの實際的技術の問題がおきてくる。

さて、この分解が終ると、いよいよ組立が開始されるが、眞先に扱はれる骨格の組立ては「いびつになつた菱形のものは弱い、中に一本支柱を入れると強くなる」といふ「もの、強さ」の簡単な原理が具體的に現れてくるが、その理由は、また難しすぎるから説明は與へられない。

しかしこゝで實際に見たことは、やがて四年のドライバー製作に利用され、更に高學年の轉輪理論に及んでからは構造力學の素地となつてゐるのである。

ハンドルを吊棒に入れる作業では挺の理論が、軸承の所では摩擦の問題が、物理學的部面として取上げられ、一方車輪の狂ひとり作業になると、なぜ輪が潰れないかの工學的部面が、更に油はなぜ必要か、の問題に移つては錆、酸化、鐵錆の溶解などの化學部面が取上げられる。次いで生徒はその作業状況を工作日記に記録してゆくが、これはまた土曜日ごとに國語作文の問題として検討される等、あらゆる教材が一つの古自轉車を中心にあつて取入れられ、やがてそれは地理、歴史、經濟へと綜合されて發展してゆく。

時には組立が混亂して分らなくなることがある。しかし教師はほとんど、手傳つてくれぬ。どうしても自分で組立てなければならぬ。そこに一つの鍛錬、修養が生れてくるのである。かうしてやつと出來ると報告會を開き、その製造過程を發表させる。

これで一年生は少なくとも「自轉車」といふ機械と、その運動については知悉す

る。前に取上げられた問題は勿論、なぜ自転車は倒れないか、なぜ人が走るよりも早く走れるか、など、その他いろいろの理論は臆げながらも輪郭だけは頭にきざみ込んでおいてある。

総合的に鍛へられた科學心は、かくてまた次の段階へ、かうして歩一歩、比較的容易に自らの道を切り拓いてゆくのである。

第九章 附 録

一、奉仕經濟と新建設

日本は今三つの重大事業を擔當しつゝある。この三大事業を完遂する爲に、國民經濟に幾多の變革刷新が要求されてゐるのである。低物價と生産増強の問題がある。衣食消費規正強化の問題がある。其の他増税の問題があり、米穀二重價格制の問題があり、公定價格の問題があり、統制會の問題である。何れも日本國民經濟に背負はされた三大事業完遂の爲にせんとする時局下重要な施策である。

然らば三大事業とは何か。第一は支那事變費の負擔である。第二は生産力の擴充

である。第三は大陸への投資である。之が日本民國經濟の三大事業である。

先づ第一の支那事變費の負擔といふ事が日本經濟史に於て如何に重大なるものであるかは、戦費の負擔額だけからでも容易に了解出来る。日本は過去に於て日清日露の兩役を戦ひ、歐洲第一次大戰に參加し、近くは滿洲事變も戦つたのであるが、それ等の戦費を見るに、日清戦役は當時としては成程大きな戦争であつたのであるが、戦費僅かに二億圓に過ぎない。日露戦争の時には、時の參謀次長兒玉源太郎は「四分六分に戦ふ、六邊勝つて四邊負ける、そのうちに誰か調停者が出るだらう」と言つたといひ、時の海軍大臣山本權兵衛は「先づ日本の軍艦を半分沈め、人も半分は殺す。その代り、残りの半分をロシヤの全艦隊を全滅させる」と言つたと云はれてゐる程、國運を賭しての大戦争であつたが、その戦費決算は十七億三千萬圓にすぎない。更に第一次歐洲戦争の時には十六億圓であり、滿洲事變も其の戦費は二十億圓には足りない。物價の騰貴は別としても、今度の支那事變の費用が、昭和十

六年度迄て二百二十三億圓に達し、更に獨ソ開戦を契機とする世界情勢の急展開と共に、この戦費が如何ほど膨張するか分らない事を考へるならば、今次事變がいかにか大きな戦争であるかが理解されよう。支那事變こそは日本國民の経験する最大の戦争である。それはその戦費に於て、新秩序建設といふ戦争性格に於て、歐洲の戦争と相互に開戦して居る世界大の複雑性に於て、日本の未だ経験せざる世界史の一戦である。

第二に日本はこの戦争最中に、生産力の増充といふ、大規模な建設戦を戦つて居る。近代戦争は資材戦と云はれるが、その必要なる資材は悉くが重化学工業製品である。然るに日本の産業構成は從來輕工業の比重すこぶる大いなるものがあり、その輸出品の如きも生糸であり、絹織物であり、人絹織物であり、雑貨であり、玩具である。決して重工業品でもなければ、化学工業品でもないのである。昭和七年頃から、日本重化学工業の發展は特に顯著になつて來たのであるが、それでも當時局

の絕對要請に應ずべくもなかつた。従つて昭和十三年以來政府は、生産擴充四ヶ年計畫を樹立し、重化學工業品十數品目の飛躍的擴充に朝野一致の努力を傾けて來たのである。先年議會に於て青木企畫院總裁の言明した所に依れば、若しも計畫が順調に進めば、昭和十六年度末に於ては、鐵、石炭其他十數品目に於ては、日滿支を通じて自給自足を完遂しようといふ大規模なる生産擴充計畫である。かゝる大規模の重化學工業の生産力擴充計畫の外に農業製品を生産増強にも努めて居る。近代戰爭が經濟戰である以上、之等の生産力擴充は戰爭遂行の爲に絕對に必要であるが、更には東亞の新秩序建設、東亞共榮圈の確立そのものも、經濟建設を即ち生産力の擴充をその絕對要件として居るのである。

第三に日本は大規模なる支那事變を遂行し、飛躍的なる生産擴充を行ひつゝも、同時に又、大陸への投資を行ひつゝあるのである。戰爭最中には何れの國の貿易尻も必ず輸入超過となるものであるが、日本は最近こそ却つて輸出超過である。元は

第三國からの輸入は、勿論超過して居るのであるが、それ以上に滿洲支那等、所謂圓ブロックに對する輸出が激増せる爲である。しかも之等の輸出超過は原地民衆生活安定の爲に、或は通貨價值の維持の爲に、更に又大陸資源の開發の爲に、絕對に必要なのである。之なくしては共產黨その他第三國勢力の策動を抑へることも出來なければ、又大陸資源を開發し、東亞共榮圈建設の基礎を確立することも出來ないのである。

日本は聖戰五年、支那事變の遂行、生産力の擴充、大陸投資といふこの三大事業を同時に、しかも大規模に遂行し來つたのである。かゝる三大事業を行ふことは世界人の常識に於て殆ど考へ得ざる所であつて、英米その他の列強は北支事變が始まるや、日本はこの戰爭の經濟的負擔によつて必ずや行詰るであらう、と希望的觀測を試みたのである。彼等がかゝる見透しの下にこそ愈々日本に經濟壓迫を斷行せんとし、益々援蔭行爲を強化したのである。然し、日本經濟が彼等の豫想と希望と

裏切り、よく之等三大事業の困難と戦ひ、聖戦既に滿四年を經過した今日に於ても國家經濟の基本體制に於て微動だにして居ないのは果して如何なる原因に依るものであらうか。

休眠生産力の動員と云ひ、ストックの回収と云ひ、献金運動、金の現送と云ひ、何れも大なる貢献を日本戦時經濟に致したこと勿論である。然しそれ等には餘りにも限度がある。それだけが日本をして能く三大事業の大負擔を完遂せしめた原因ではない。特にそれ等のものは、諸列強に於ても十分計算し推定し、その上に日本經濟の行詰りを結論したのである。それ等の條任を無視してはならないが、同時に之のみが日本戦時經濟の推進力であると考へてはならない。若しそうであるならば、一體今後の日本には如何なる抗戰經濟力が残されてゐると云ふのであらうか。

今日最早眠つてゐて、之から動員し得る生産力があると云ふ譯ではない。資材も足りない、人も足りない。それ故の遊休未働設備の増大こそが今日の問題なのであ

る。ストックの回収に限度のあることは既に一般の常識である。金の現送も亦無限に出来るものではない。是等の條件は日本戦時經濟今迄の一つの重大なる基礎ではあつたが、決して其の全部ではなかつたのみならず、特に今後は是等に多くを期待することは出来ないのである。

然らば、日本の戦争經濟を過去五年に亙つて、持ちこたへて來たものは何であるか、將來の世界史的大戰に於て、之が經濟的地盤を強固に確立して行くべきものは何であるか。一言以つて之を云へば統制經濟の確立である。その精神、その指導原理より之を云へば、奉仕經濟の確立である。

統制經濟の確立の爲に今後益々法令の公布實施が頻繁となるであらう。各般の組織機構が整備されるであらう。然しそれだけではない。國民の經濟活動に於ける指導原理が轉換せねばならない。若しそれがなかつたならば、法令の繁雜化は却つて閑取引、法令違反を激増せしめるであらうし、組織の形式的整備は、却つて一部利

己主義者の暴威を遏ふせしむるのみに終るであらう。日本の統制經濟が幸に今日迄の成果を確保し得たのは、國民の時局認識の徹底を基礎に、兎も角も統制經濟が進展し來つたからである。今後國際の超非常時に、米大統領ルーズヴェルトの所謂無制限國際非常時に對處して行く爲には、愈々此の統制經濟を確立強化し、益々奉仕經濟の體制を整備して行かねばならぬ。

奉仕經濟を確立し、國民がその生産生活に於て、從來の如く、利潤さへあれば如何に時局下不必要な贅品であつても、貴重な資材、勞力を使つて生産に努める一方、利潤が無い場合又は増産に依つて著しく低下する場合には、如何に東亞の新建設に必要なものであつても、之が生産又は増産に努力しないと云ふが如き弊弊を一掃するならば、それだけで何れだけの増産が出来るか分らない。

此の指導精神の轉換は、勿論一部のものにだけ要求しても無理であり、又不當に極端なことを要求しても却つて効果を懸くするであらうが、全面的に、而も合理的

な規模に於て、公益優先の經濟體制の確立を圖り、國家が國民生活の全分野に積極的責任を完うすると共に、全國民一様に、その職域を統後の戰場として興亞の聖業完遂の任務を分擔せしめる様に奉仕經濟體制を確立せんか、生産は愈々増大するであらう。

特にこの際自由主義經濟の悪い反面にのみ餘りにも感染して居る人々に代つて、純眞無垢の青年分子が、正しい認識と燃ゆる情熱とを傾けて、統後經營の第一線に立つ様になれば、生産の増進は更に強大なるものがあるであらう。

都市に於ける資本家は利潤の計算のみで生産の方針を變更する。勞働者はヨリ高い賃金を求めて次々に工場を變り、その爲生産の能率は停滯し、職業指導所は一生懸命になつて働いても、勞働者の現状維持さへ困難だと云ふが如き有様であり、農村は農村で、或は賃金が良いと云ふので工場に出かけ、或は採算が悪いと云ふので米の生産を抛棄すると云ふ様なことにてもなれば、日本の三大事業は誰れの責任に

於て完遂出来るであらうか。更らに又日本國民は、何を根據に東亞の盟主となり、如何なる道德的的思想的指導性に依つて滿洲支那其他の東亞各民族に呼びかけようとするのであるか。

消費生活に於ても、日本經濟史空前の大戦費その他の三大負債を、今迄の生活體制を切替へることなくして如何にして負擔し得るであらうか。感恩報謝は日本人の美德であるが、今日こそ米一粒、酒一杯の消費も、釘一本、石炭一トンの消費も、御國の爲に、興亞の大業に役立つ様に之を使つて行かねばならない。

經濟生活、生産、配給、消費の各分野に於て、國民は常に時局の重大性と東亞の盟主たる責任とを自覺して行動せねばならぬ。三大事業の負擔も斯くして始めて可能であり、又その奉仕的、全體的精神と訓練を通じてのみ、我々は東亞の新秩序を口にし得るのである。

勿論、個々人の精神を一變し、個々の職場の能率を増進すると共に、全體經濟の

能率化を促進し、全國家政治の姿勢を一變する爲に、産業經濟の組織や中央地方の行政機構をも速かに刷新整備しなければならぬ。然し之がためにも官民全體の人心、世界觀が變改せねばならぬ。

「我等は皇國に生き皇國に死す」。此の歸一絕對の精神を基調として、國策奉仕の經濟が一日も速にその態勢を整備せんことを祈念して己まない。東亞の新秩序は一日にして成るものではない。東亞に新秩序を創建せんとせば、先づその根基中軸たる日本に新秩序が創造されねばならぬ。日本に新秩序を創造することは、我々日本國民の一人一人がこの新秩序の創造者、責任者として、將又、政治力、文化力、經濟力等に於て、世界いづれの國民にも劣らざる精神の涵養が必須の條件である。

二、ナチスの青年教育

スキスの國境にほど近いソントホーフエンは、アルプスにつゞく諸連峰にかこ

於て完遂出来るであらうか。更らに又日本國民は、何を根據に東亞の盟主となり、如何なる道德的思想的指導性に依つて滿洲支那其他の東亞各民族に呼びかけようとするのであるか。

消費生活に於ても、日本經濟史空前の大戦費その他の三大負擔を、今迄の生活體制を切替へることなくして如何にして負擔し得るであらうか。威恩報謝は日本人の美德であるが、今日こそ米一粒、酒一杯の消費も、釘一本、石炭一トンの消費も、御國の爲に、興亞の大業に役立つ様之を使つて行かねばならない。

經濟生活、生産、配給、消費の各分野に於て、國民は常に時局の重大性と東亞の盟主たる責任とを自覺して行動せねばならぬ。三大事業の負擔も斯くして始めて可能であり、又その奉仕的、全體的精神と訓練を通じてのみ、我々は東亞の新秩序を口にし得るのである。

勿論、個々人の精神を一變し、個々の職場の能率を増進すると共に、全體經濟の

能率化を促進し、全國家政治の姿勢を一變する爲に、産業經濟の組織や中央地方の行政機構をも速かに刷新整備しなければならぬ。然し之がためにも官民全體の人世觀、世界觀が變改せねばならぬ。

「我等は皇國に生き皇國に死す」。此の歸一絕對の精神を基調として、國策奉仕の經濟が一日も速にその態勢を整備せんことを祈念して己まない。東亞の新秩序は一日にして成るものではない。東亞に新秩序を創建せんとせば、先づその根基中軸たる日本に新秩序が創造されねばならぬ。日本に新秩序を創造することは、我々日本國民の一人／＼がこの新秩序の創造者、責任者として、將又、政治力、文化力、經濟力等に於て、世界いづれの國民にも劣らざる精神の涵養が必須の條件である。

二、ナチスの青年教育

スキスの國境にほど近いソントホーフエンは、アルプスにつゞく諸連峰にかこ

宿舎に收容して軍隊的の規律正しい生活を行はせ、しかも嚴格な訓育のうちにもまづ「生徒の自發的なる活動をうながす」といふ點に教育の主眼をおいてゐることである。教室における授業も、教官の講義や教授に重點をおかず、むしろ生徒等の共同研究に重きをおいてゐる。即ち四人ないし六人の生徒が一團となり、教官より與へられた課題を基として、各自分擔をきめて研究を行ひ、その結果を綜合し、これをそのグループの共同研究として發表するのである。一學級内に設けられた數箇のグループは相互に研究の結果を發表し合ふことにより、互に知識をひろめてゐる。教官は、これ等グループに適宜課題を割當て、必要なる文獻資料の類を與へ、さらに研究の成果や、その發表の態度を批判して適當に指導してゐる。

學年ごとに行はれる試験にも、いろいろ特色があるが、たとへば智育と體育、精神的方面と肉體的方面の成績は全く同等に取扱はれ、一方にのみ偏した成績は、これを認めないのである。又個人の成績とともにグループの成績、即ち共同研究の成

果を重んじ、たんに個人的の努力に止らず、常に「協同精神」と全體への責任觀の育成につとめてゐる。

なほこの學校では毎週一回ないし二回の割合で、教官が生徒を順次自宅に招き、食卓とともにしながら、教官と生徒との間の個人的、人格的結合をはかり、かつ兩親の膝下を長く離れてゐる青少年に、わづかなりとも家庭的空氣を與へんとしてゐるが、これも従來の學校にはあまり見られぬところであらう。

したがつて貧富の別なく、優秀なるものは、だれでもこゝで學ぶことができるのである。生徒は數着の制服、靴、下着の類から、スキー、自転車、あるひは見學費小遣錢までも支給せられ、教育費はすべてナチス黨の費用をもつて行はれ、父兄にはいさゝかの負擔もかゝらぬようになつてゐる。

三、樞軸國の學生進軍譜

ドイツの男、女學生

ドイツ千年の運命を決定するこのひと時、戦争第三年目に入つて、光輝あるドイツの學園も、國家目的達成のために國家の總力が一方向に向つて組織運営されねばならぬといふ思想が、象牙の塔をひと撫てにして、學生階級と云ふ將來の特權的存在を遂に許さなくなつたのである。學生の七十パーセントは今、東部戦線に一兵卒として、砲煙彈雨の中にある、出征した學生の中には應召したもの五十パーセント愛國的情熱から義勇志願したものが二十パーセントあるといふことである。こゝにドイツの決意と總動員の規模の大きさを知らることが出来るだらう。

國家總力戦は未定年の殘留學生に對してもその蹶起をうながしてをり「學園に留まるものは思想戦に参加せよ」といふ學生指導部教授聯盟の檄が掲げられ、歐洲新

秩序に對して疲れを知らぬ學窓の研究と協力が行はれつゝある。

開戦以來の女學生の行動も安閑として教室に夢をむさぼることを許されない。六月に出た女性徵用令は、容赦なく學園を襲つた。勞働力不足から外國勞働力を大量に輸入し、捕虜が軍需工場にまで使役されてゐるほどだ。従つて本年の夏季休暇の十週間は、學生の銃後奉仕も徹底的に實行に移され「學生奉仕隊」の腕章をつけたうら若いインテリの女性達は、殆んど全部、工場をはじめ市電や、郊外電車の車掌驛の勤勞員にまで動員設置された。これらの勤務は本來自發的ではあつたが、學生銃後奉仕終了の證明がなければ、學業が續けられぬ制度である以上、これを義務制度と見てもよいわけである。

イタリーの學生

伊太利に於ては、片手に銃、片手に本といふモットーの下に大學フアツシヨ團が嚴格なる軍隊的編制を行つてから、已に十二年になる。フアツシヨ黨結成當初の黨

目の信條たる「實行ありて議論なし」といふ精神を文字通りに實踐してゐる。平時一週八時間の軍事教練に鍛へられた身體と戦闘技術は伊國軍中の精銳であり、ムツソリーニ首相の最も信頼し、恃むに足る親衛隊なのである。今次の大戦勃發と共に殆んどその全部が義勇軍として實戰参加を志願し、うち七割が許可され、數週間の訓練の後に漸次軍曹の資格を以つて第一線の各隊に編入された。文科、法科の學生は歩兵部隊に、工科機械科の學生は砲兵、機械化部隊とそれ々々特技を生かして、十分戦闘力を發揮させてゐるが、彼等が如何に勇敢に戦つてゐるかは、參戰一週年における發表によつて、戦死五百九十九、戦傷六百十一、武勳により軍功賞を授與されたもの三百九十といふのである。

なほ丁年未滿て大學其他學園に居残つてゐる學生も、學業、軍事教練の餘暇は、戦傷者の看護の手傳ひ、戦死傷者遺族への勞務奉仕、及び各職場における勞働不足の補充、宣傳事業への協力、防空防衛防禦に對する協力、其他少年團に對する指導

思想戰の指導研究等に只管に活動しつゝある。

殊に特記したいことは、日本語講座がローマに於て開催されることである。彼等はこの戦時下にあつていかに日本を敬愛し、日本を知らんとするかの意欲が狂盛であるかを物語るものである。